



儀禮筆記

卷一、二、三

□ 12
2956



儀禮考記卷之一

口 12
2956

4-4-5
卷
追 92

12
2956

士昏禮第二



昏禮

士冠礼ハ士ノ字ヲ上エテ昏礼ハ上ノ士ノ字ヲトリタルハ冠礼ハ

専ラ士ノタメニイフトイヒ可之此ノ篇ハ下達シテ納采用雁トフルニ下達ノ字ヲ礙フルニ士ノ字ヲトラサルヲ身ハル之教氏曰此不言士者辟下達之文 辟ハ避ナリ

注 使媒氏下通其言 下通ノ心ハ内ニ通シテクワイフニ然ルニ下達

ハシタ通シテスルノ謂ハスル上自天子下達庶人ノ達ニテ上ヨリ下ニ達スルニテトイフ言ニ但シ納采用雁ノ一事ハカリ之餘ノ事ニ下達ハ字ハカニラサルナリ

注 使人納其采擇之礼 ヲ取リタヒトツカイヲマリシカサルカクダサランカフ向フトイフ心ノトコロヲ采擇ノ礼ヲ納ルトイフナリ

去五味均平蔵

注 交接設紹也 兩家婚嫁ヲ結カニ媒氏ヲナカエイレル是レ

注 皆所以養廉耶 媒モナカエイレズシテ兩家カアヒタイニ縁ケニ

ナクスルナラハ是レ廉モ耻モナシトイフモノニ

筵于戸西 戸西ハ福席中ノ堂上ナリ

右几 几ヲ席ノ上ノ右ノ方エテナリ

注 為神布席也 此ノ席ハ空位ナリ神ノイマス言ナリ

注 席西上右設几神不統於人 人ノ席ハ西上右ヲトシ几ハ左ニ設テ神ノ席ハ西上右ニシテ人ノ席トウハラ之是レ



神不統於人ナリ不統ノ口蓋シ人ニツカ
又モノテ又タベツカニスルコトナリ

席有首尾 蓋シ席ニヘリドモトリテ
上ト下ノシルシテモシテアルベシ

若群吏 群吏ハシタヤクノシツカイノ
モノヲイフナリ

莫夕之服 莫ニ夕於朝之服ナリ

有司緇裳 有司ハ下ノ擯者ヲツノ
類歟

擯者出請事入告 主人ノ有司ハ擯者
トイフ出ハ大門ノ

入告ハ主人正出ルナリ

賓不答拜 教氏曰不答者使事未致不
敢以私礼雜之也

人評所南北不甚相懸似為近情注以
阿為棟亦無據以考西阿之法推之則
阿距檐不遠豈阿即殿之別名與

授于楹間南面 鄭注ノ意ハ授ハ受授
ノ心ナリ南面ハ東モ

主モ共ニ南面トイフコトナリ此說未當ナリ
教氏曰此文承主人之下則授宜作受者南
面則授者宜北面矣為人使而授于堂乃不
南面若辟君使於大夫之礼也授受于楹間
敵也使者雖賤於主人然主人士也其爵卑
未足以名別故使者無降等之嫌而得與主
人於楹間相授用敵者礼也主人拜受而賓
不拜送者以其非禮物也此与上文不答拜之
意異凡為使之礼皆放此○李氏曰楹柱也
堂上有兩楹間堂東西之中也

揖入 阿ヒ互ニ揖シテ
大門ノ内ニ入ルナリ

揖入三揖至于階三讓 入ハ楹門ニ入ル
之ニ揖三讓

ハアヒ互ニスルナリ

至内雷 楹門内ノアヒタリヲツル
ノトコロナリ

以賓升 以ハヒキヒテトヨム之案内ス
ルキミナリ然レ階ハ自ラ

賓ハ西階ナリ主人ハ東階ナリ

入堂深 棟ノ下ニ入ルハヨホド堂ノ
ヲクニナル之故ニト云フ

義疏曰使者升階即至棟下疑其太驟
或當從今文作殿則賓致命與主

明為合好 受授ノ礼ヲカス堂ノ一ツナ
カハシラノ向ニスハ此レ兩家

ノ好ヲ合ストコノ意味ヲ見セルコトナリ
然ラハレハハリニ楹ノ間ニ於テサルベギナリ

其節同也 西賈疏云賓以屬授主人于
楹間其遠近節同也

南面並授也 賓主兩人ナカラ南面シテ
相ヒ並ビ立ツテ受授ヲ

イフナリ義疏曰賓主授受之正礼當訝
受不當並受也聘礼賓面大夫受幣之法
受者南面授者北面此尔當然故教氏決之
非苟為異而已云々

賓降出 降ハ階ヲ降ルナリ出ハ
楹門ノ外ニ出ルナリ

授老雁 教氏曰老室老大夫士之貴臣
授鴈於階下既則進立於中庭

右納采

注 老群吏之尊者

老ハ室老ト見ルヨキニ似タリ群吏トイハシ

タマクテ家臣トハニカフナリシタマクノ尊者ヲ老トイフハアシキ似タリ義疏曰服傳御大夫有室老典士皆為貴臣其餘皆衆臣也注云室老家相也據此則室老為家臣之長家臣畜於私家不食於公共群吏府史等異也皆姓礼士有私臣礼云士不為家相明士有室老矣教氏較注為優

擯者出請

主人ノ擯者席門外ニテ出テ賓ノ用事アルヲ問フ

注 不賓之事有無

賓之事ハ女ノ名ヲ問ハントスル

カシレキツテアレヒワカトツノヲ知ラヌカニテ何事カハルト尋子問フ是レ不賓之謂也

賓執雁請問名云

雁ハ采ニ用ヒシ雁ノ外ニ又タ一

右問

ツノ雁ヲ持チ来リテ名ハ女ノ名ヲ問フナリ主人許ハ承知スルナリ入授ハ雁ヲ授ルナリ如初礼ハ納采ノ礼ノ雁ヲ授ノ儀式ト同様ナリ

擯者出請

上ノ問名ノ式ト同様席門外ニ出テ事ヲ問フナリ

賓告事畢入告出請醴賓

告事畢ハ賓カ用事ハスニタト告ナリ入告ハ擯者入テ主人工告ル之出モ擯者ニ

主人徹几改筵東上

サキニ神ノ空ニ位ヲ設ケ西上ニ

シテアリシヲ今ニシキカ東上トスコレテ改筵トイフ必シモ他凡他筵改ハルニ非ズ

注 今為人ノ賓ナリ

人トハ即チ醴スルトコロ

授校捧送

賓カ几ヲ以テスナルヲ捧送スルヲイフナリ

以几辟

辟ハ注ニ見遊巡トアリ少シアトスガリヲハルナリ

北面設筵坐左之

設ハ凡之坐ハ上ノ改筵ノ筵上ナリ

此ノ筵ハ東上南面之南面ノ筵工前カラ几ヲ設クルニ是レ北面之左之凡ヲ筵上ノ左ニテシナリ之字ハ几ヲサスナリ凡ハ上ノ儀凡改筵ノ儀シタル凡之別物非ズ

西階上各拜

几ヲ筵上ニ設ケテ西階上ニ還リ始テ各拜スル

注 疑立

疑音巖正立自定之貌千ヨト立ツタルトハ少シ千ゴフナリ

注 待賓即筵也

賓カ筵ニシテ

アルナリ賓ハ筵ニキテ醴ヲ受ケテワリ又タ西階上ノ位ニカエルナリ

注 明相尊敬

筵ヲ降り西階上ニサカリ北面ニ是レ尊敬ニ

注 此筵不主為飲食筵

モシ飲食ノ

主トセハ必シモ筵ヲ降ラハルベシ飲食ニ起ツ主トセズ故ニ降ツテ西階上ニカエル

薦脯醢

脯ト醢トニツナリ

西階上北面

祭醴三シテ筵ヲ降り

坐

西階上ヨリ又タ来リテ筵上ニツキ坐シテ啐醴ナリ

建柶興 柶ヲ解中ニ建ナカラ其ノ解ヲ手ニ持ツテ興ツナリ

主人答拜 主人ノ位ハ階上之上ノ體ヲ拜送セシトコト同シ

之豆劑 之ハ猶于也豆間ハ邊豆ノ間ナリ賈疏云省文

注 必考為祭 祭ハ即千上ノ發也三是レナリ

注 示有可也 先ハ先ニ酒ヲ送リハシメタルモノヲイフナリ

建柶扱也 扱ハハサチリヤハリタテルヲイフナリ

賓即筵奠于薦左 奠ハ解ヲ奠之上ニ奠解遂拜

トアリ又々此ニ奠トスハ此ノ奠ハモハヤサツハリ解ヲ奠キキリテ不復拜ナリ

口送于门外再拜 昏礼ノ末ニ主人送再拜トバカリ之義疏云主人拜皆不答拜凡送賓之礼皆然也

上ニ主人答拜トバカリテ賓降筵トイフヲナキユ此ノ賓即筵加キコエカキニシタレ上ノ體ヲ拜ヒシトキヨリ一度筵ヲ降りテ再拜ナリ故ニ此ニ即筵ノ字ヲ着ル之主人答拜ノ句ノ下ニ賓降筵ノ三字アルツモリニシテ見ルベシ

坐取脯 筵ヲ下リテワリテ脯ノ前ニ來リテ坐シテ脯ヲ取ル

將歸執云 執ハ執リ示スノ意ナリ

辭其親徹 親徹ハ賓ガ手ツカヲ取ルヲイフナリ

送于门外再拜 门外ハ大門外ナリ再拜ハ主人ナリ賓

答拜セザルハ使事已ニシセバモハヤ私礼ヲ以テ雜エザル之納采ニ主人迎于门外

ノ時ト同然ナリ以上醴賓ナリ此醴賓及比上ノ問名ニ並ニ納采ト同日ノ事之

西面 使者ノ從者カ階下ニ東面シテテルニ使使者ハ西面ニナルナリ且ツ

西面ニテ授ルトキハ主人ノ方カラ授ルトココカ見えスシテミクルシカラス

出 大門外ニ出テ去ルナリ

如納采 禮 不信 如同名礼而納采礼如イフ

玄纁 玄纁ノ束帛ナリ

象陰陽備也 玄ヲ陽トシ纁ヲ陰トスルナルベシ

純帛無過五兩 純帛ハ純ハ糸ナラン五兩ハ十端ニ端ヲ西トス

右納 徵 國為庭實 幣エソエテ別ニ一シトモノヲ庭エラツテ庭實トス

請期 期ハ昏礼ノ期ナリ請ハ夫家ヨリ使者ヲヤリ女家ニ請ヒ問フ之

主人辭 主人ハ女ノ父ナリ辭ハ昏ノ期ヲ定メルヲ辞スルナリ

賓許告期 賓ハ夫家ノ使者之許ハ此ノ方ヨリ期ヲ定ムルヲ許スナリ因ツテ遂ニ告期ナリ

辭即告之 辭ハ女ノ父ヨリ期ヲ定ムルヲ辞スル之告之ハ夫

家ノ使者ヨリ女ノ家ニ昏期ヲ告ルナリ

期初昏 期ハ昏礼ノ期ノ日ナリ初昏ハ初メテ昏ル時之夕方ノナリ

右醴賓 右納吉

〔擧〕肺脊ニ 擧トハ擧ゲ食スル謂
ナリ 祭肺ノ祭ニ對スル

擧ノ字ナリ 二トハ肺ニツ脊ニツナリ
婿加一肺一脊ヲ擧シ婦加一肺一脊ヲ擧ス

〔祭〕肺ニ 一ツハ婿ノ祭肺一ツハ婦
ノ祭肺ナリ

〔寢〕婿ノ室也 命主以上ハ父子
異宮スルニ至此ノ

寢門ハ婿ノ寢門ニテ舅姑ノヨ
ル室ニアラハルナリ

〔食〕食時所先擧也 先擧ハイ千ハ
シキニ取リア

ツカフコナリ 食物ニカコルトキニ
ヨリサキニツ豚ノ肺脊ヲ擧ゲ名フ

〔有〕有者體之正也 夫有ハ腹ノ體ノ
中デノ正トイフコト

〔食〕食時則祭之 食時トハ肺脊ヲ
食スル時ナリ言ハ

肺脊ヲ食スル時ニ先ツツノ肺脊ヲ
祭ルナリ 是レ食時ニ祭之ニ祭肺

ハ祭ルヲ主トスル肺ニ至必シモ食
時ニアラスシテモ祭ルナリ此レ祭

肺ハ擧肺ト異ハナルトコロナリ

〔飯〕飯必擧之貴之也 賈疏特注
云先食啗之

所以導食通氣也

〔凡〕凡魚之正十五 魚ノ正数ハ十五
トイフコトナリ

〔饀〕饀孰也 熟孰ハ同キ

〔冢〕冢皆作密 除冢ノ類又タ下
ニ冢字アリ故ニ

皆作密ト皆ノ字ヲ着ルナリ

〔饌〕于房中 饌ハセン具ヲツラ子ヲク
ナリツノ饌スルモノハ即

千下ノ饌ヲ指ナクノ類ナリ

〔醢〕醬ニ豆 注ニ以醢和醬トアリテ
醢醬ヲ一ツシテ謂シ

タル之ツレヲ豆エイレニツアルハ夫婦
各一ナリ

〔菹〕醢四豆 上ノ醢醬ハ一物トナリ此ノ
菹醢ハ道ト醢トニタイ

ナリ 菹醢四豆ハ道ノ豆ニツ醢ノ豆ニ
ツ之夫婦各々菹醢ニ豆ツツトトル

〔黍稷〕四敦皆蓋 黍ニ敦 稷
ニ敦デ四敦

トモ皆ナフタヲシテクノ之敦ハ
黍ヤ稷ヲ盛ル器ナリ

〔生〕生人尚襲味 生人ハイキテラル
人トイフ心口鬼神

ニ對シ生人トイフ襲味ハ塩梅ヲ
シテ烹タキヲシタル味ヒヲイフ

〔食〕食之有視表也 此レ周礼ノ
語ヲ借り

用ユ食之有ハ食物ノヨイ塩梅ニト
ミナツテアルト春ノ時ノホシノリトシ

テアルトコロニナツコロフトイフ心口之

〔煮〕煮肉汁也 肉ハ上ノ鼻ニ合升セシ
豚ノ肉ノ一ナリ

国 無塩菜 大古ハ質朴ニエ羹エモ
塩ヤ菜マノ類ヲイレズ

国 爨火上 火上ハ火ノ上ニカヒツテ
アルヲイフ火ノ上ニカケ

トコハ寢在 門外東方ナリ
浴累 敷氏ヨリ漫物謂之累コレ尊ニ

禁所以床無者 禁ハダイノ無ハ
即千尊ナリ

不忌古也 玄酒ハ水ナリ蓋古ノ
カメナリ故ニ不忌古トイフ

酌内尊 内尊ハ室中ノ尊ニ外尊ハ
房戸外ノ東ニアルナリ

破匏也 ニツ破リシフベナリニツア
ルエ合卷ノ合ノ字アルナリ

国 為夫婦各三酪 三酪ハ三々ビ食後
ニ飲ムナリ下ニ見エ

テアリ夫婦カ三度ツク酪シテ都合テ
六々ビ酪ヲノム之故ニ六度ニ爵西色ノ
六ツノサカキヲ用ユルヲイフナリ

緇袍 袍ハハリナリ裳エクロキハリヲ
トリアルナリ

乘墨車 壻カ乗ルナリ

前馬 馬ヨリ前ニスト讀ムキニテ
馬ノ前ニ燭トリヲ行カシムルニ

鬼神之 ウヤニツテ鬼神ト同様ニスル
言ナリ之レヲ鬼神ニナツ

ロフノノギミナリ

国 象陽氣下施 下ニ施スハ裳ノヘリ
ナレバ之衣ノヘリナレバ

上ニアリ下ニ施トイハズ陽氣トハ男子ノ
レバナリ女ハ陰氣ニ象ルナリ

国 撮盛也 撮ハカスルナリ盛ヲカスルハ
ナリ賈疏ニ大夫墨車士

機車今士乗大夫墨車故云撮盛

国 車同等 晉モ墨車女モ墨車故ニ
亦如之トイフ是レ大階ト

モニ車ノ等ヲ同ジフスルナリカクシキ
ヲヲナシフシテシルナリ

主人筵于戸西 室戸ノ外ノ西ナリ
室ノ中ナリ

女次 アタニノカサリヲスルヲ次トイフ
ナリ

纁神 衣ニ纁色ノハリヲトフニアル
ナリ

国 今時髮也 髮ハツエガミナリ

国 追師掌為副編次 追師ハ官名ナリ
副編次ハ賈疏ニ云ク

彼注ニ副之言覆所以覆首為飾其遺象若
今步搖矣編編列髮為之共遺象若今假
紒矣次次第髮長短為之所謂髮髻

国 衿玄 衿ハ同ナリ同ク玄トイフ言ニテ
上下ノキリモノニナ玄色ナル之

上ハ衣ナリ 下ハ裳ナリ

国 此尔玄矣 此トハ純衣ヲサス之言心口ハ
女ノ純衣モ從者ノ色ト同ク玄ニ

復衣未詳
□復衣

國復衣不以祔 復衣ハ死人ヲタメヨバイヤ
スルニキセル衣ノナリ

國婦纓筭宵衣在其右 纓筭ハ婦ノアタマニライフ
ナリ宵衣ハ敷内宵衣

次禮後笑且其所以異於祿者則未之聞
○楊氏復曰案特牲禮主婦纓筭宵衣注以

銷為衣此以銷為頂ニ說底語○鄭云以銷為
領トアルハ

國出而不復 出ルハ子ナクシテオラレシニ
イフナリ

國廣充幅 充幅ハハルハノイフニキツタリ
タツタリセズニルハナリ用テライフ

國以銷為濟屬也 濟ハアヤギヌナリ

國以銷為領 エリヲアヤギヌニテスルモノ
ナランカ

國且相別耳 別トハ婦ノ衣トワカツテ
イフナリ

國被纓黼 ヒトエノ又ヒヲシタルヲ領リ
テ婦ノ後エツヒテアルナリ

國類禫也 禫ハヒトエノナリ

國黼領 黼ハ黑白ノアヤギノツノ黼ノ
ヌイノアルエリヲイフナリ

國白典黑 白ト黒ノアヤアルナリ

國后夫人 后ハ天子ノ后之夫人ハ諸侯ノ
夫人ナリ

國狄衣 狄ハ翟也翟ノ羽ニテカホリ
ヲシタル衣ナリ

國刺黼 刺ハヌヒコムカ黼ハ黑白ノ
アヤアルナリ

國如今偃領矣 偃領ハシレズヤハリヌヒ
エリノ類カ

迎于门外 大門ノ外ナリ

再拜 再拜ハ婦ニ禮スルニ
昏礼ノ始ヲ重ンル也

降ハ階ヲ降ニ出ハ大門外エ出ルニ教氏
曰ク西奠鴈以女在房也再拜稽首礼ニ重クシテ

於父母是尔一義也云々
主人カ答拜セ
ハルハ女

國主人不各明主焉授女耳 主人カ答拜セ
ハルハ女

授ルナリ 賈疏云不各拜明壻拜為授女不為主人
タノヲ主トスルヲ明シタル之授トハ鴈ヲ

國親而之 人ニ僕タルノ礼ヲスルニ是レ也
レニ下ルナリ

婦乘以几 几ヲ車ノ後エラキコトヲ
フンテ車ノノボルナリ

國如明衣 衣ノ上エラヒニキル衣之下ノ衣ヲ
鮮明ナラシムニ其ノ義ヲトリ明

衣ト名ヅケシナリ

國三周 周ハメグル之車ノ輪カ三ツ
メグルヲイフナリ

侯于门外 壻カワカ家エ門ニテカエリ
テ婦ノ車カアトカラ来ルヲ

侯ツテアルナリ

國壻車在大门外 壻車ハ即千壻乘
其車ノ車ノ大門口

迎 右親ハ女家ノ大門口ナリ

右夫婦入室

主人揖婦以入及寢門 主人ハ婿ノ入ハ大門ナリ 寢門ハ婿ノ寢門ナリ
 第姑ノ寢門トハ異ナリ
 在席于奥 凡ツ奥トハ室中西墻下 少南也
 婦 尊西南面 尊ハ比庸ノ下ニテ南面ニテ席ヲ布カサルナリ
 饌具テキシフニテ席ヲ布カサルナリ
 膝御沃盥 沃ハ水ヲ盥ニテ盥ハ手 アロフ之盥者ハ夫婦ノ
 沃者ハ膝御ノ父ハコモモスル之膝沃婿 御沃婦ナリ注見エタリ
 贊者 主人ノ家ノ贊者ナリ

舉者盥出 舉者ハ昇ヲ舉者之一昇 二人ノ三昇ニテ舉者凡六人
 盥ハ階ノ東ノ洗テアロフ之出ハ寢門ヲ 出テ昇ノアルトコロニ來ルナリ
 入陳于階南 入ハ寢門ノ北之階階 南ハ階階ノ下ノ南ナリ
 國 執七者執姐者 七姐各三ツ之一昇ニ 姐一七之執者ハ此ノ注
 ノヨフスニテハ七者姐カワカツテアルヲナレ 叔氏ノ説ニハ有司三人ニテ一人カ一ニ姐
 フ兼子執ナラントイフ
 國 入設之 入ハ寢門ヲ入ル之設ハ昇ノ西ニ 設ル之設トハ姐ヲ設セ七昇ノ上
 正加エラクナリ

國 所以別出牲體 七ヲ以テ昇中ノ牲ノ體 ヲワケクスルニ出タリ

北面載 載ハ昇ヨリ出テ姐ヲ載スル之 載者ハ七姐ヲ執者コレヲナル之

國 執進豆先設 立ハ階階ノ下ノ南 之豆ハ道醢ヲ

イレテアル之房中ヨリ出シテ室中ニエラフ ル之共ノ道醢設ケステアトエ姐ヲ設ケルニ 是ニミテ一ニ設ケテアルナリ

匕首逆良 李氏如圭曰逆退後入者先 退ナリ入ルハ室ニ入ルナリ

復位于門東 門東ハ寢門外ノ東ナリ 此ノ三昇ヲ陳セシトコロナリ

國 至山ノ者共位畧賤也 七者ノ位ヲハジ ノヨリイワズシテ

此至リ始メテ復位于門東ト位ヲ著ナリ 位ニ復ストキハカリイフテハジノ位ヲ著サハ リシハ賤者ナレバ畧セシナリ

設醬于席前 醬ハ醢ト和シテアルナリ 故ニ別ニ醢字ヲイワズタ

席前ハ婿ノ席前ナリ

姐入設于豆東 入ハ室ニ入ル之サキニ階 階下ニ執而俟ツテナリ

シヲモツテ來ル之此ノ姐ハモツテ豚 姐ヲサス之故ニ魚ト腊ト下ニ列ニ見ユル

ナリ魚腊豚ノ三ツニナ姐ニノセレニ三 ツノ中ニ豚ヲ主トスルニ豚ハカリ專ラテ 姐ノ名ヲ得タリ豆東ノ豆ハ即チ上ノ道醢 在共北ノ道醢之故醢ハ豆ニイレテアル之

魚次 魚俎ハ豚俎ノ東ニ次ヒテ
ナラフ

腊特于俎北 腊俎ハ特ニヒトツ
ハナシテ豚俎ノ北

豚俎ヲサスナリ

注 東ノ豆ハ千道醢
ナリ故ニ此ノ注アル

西院ニ持出与道醢俱在豆知不在在也
東者下文舊東有黍稷故知在道醢東也

注 饌具ノナラハヨクハ方ナル
ヲ要ストテシカクウニナラハ

ツラヌルナリ 弟子職云共設典方云

注 對醬 婿ノ海曾ニ對スル醬之

贊告具 注 西面告饌具也トアリ
贊者ヨリ婿正告ルナリ

婿ハ西墻下東面スニニ贊者ハ西面ナリ

揖 揖ハ婿揖スル
婦即對廷 婿揖シ婦即對廷

皆祭 祭ハ薦黍稷肺ヲ祭ル之即千
下ノ祭薦黍稷肺ノナリ

注 皆坐皆祭ノ皆ハ並ニ

夫婦皆トイフ言之 薦ハ道醢ナリ

贊爾黍 贊既兩訓為近謂移之使近
教云云交通兩通

授肺脊 授ハ贊カモツテイテ夫婦エ
授之肺脊ハ舉肺脊ナリ

注 設之當特俎 之トハ對醬之當トハ
ムキカ特俎ニアツテ

注 イテアル之特俎ハ上ノ特于俎北ノ
腊俎ナリ 教長曰下文云設黍于

腊北而此醬宜在黍東則於特俎
為東北也

御布對席 御ハ婿家ノ女侍ナリ
對席ハ婦ノ席之對ハ

婿ノ席ニ對スル之婦ハイマニテ室ノ
北墻下ニ立ツテアリシナリ

注 贊啓會 贊ハ婿家ノ贊者ナリ會
ハ敦ノフタナリ

卻于敦南 卻ハシリヅク之敦ノ會ヲ
トリ敦ノ南エツクナリ

對敦于北 對敦ハ婦ノ敦ニ此ノ敦ノ
會ハ敦ノ北エノケテツクニ

皆食 皆ハ夫婦トモナリ食ハ黍
ヲ食スルナリ 注 孟夏ナリ

皆祭舉食舉 皆ハ夫婦ナリ舉ハ
上ノ授肺脊ノ肺脊

ナリ共ノ肺脊ヲ祭ツテ而シテ食
フナリ

注 移置席上 夫婦ノ席上ニ

注 用者云々 注 既云用者謂用
口啜用指啣醬云々此

ノ本ハ用口用指ノ四字ヲ畧セリノ啜モ
啣スルナリナラン 既云用者謂用

三飯卒食 一口謂之一飯之三飯ハ三ノ千
食スルナリ 飯ハ黍ヲ甘

スナリ卒食ノ食ハ黍稷ノ外溲醬
等ヲ食スルノ總名ナリ

右食

同字示親 向牢トハ一ツノ豚ヲ同組
ニセ食フイフ之是レ
親シキヲホス之牢ハ豚ヲイフナリ

不主為食 其三飯而成禮也 食ノタメ
ニスルコト

王トセサルニ正禮ニ 三飯ハ禮ヲ成シ
ソルニ二飯 子ノミシテ畧シタルニ

皆祭 皆ハ夫婦ナリ祭ハ醴スル
酒ヲ祭ルナリ

酌 漱ハスル之儀 後ニ醴
ヲノミスルコトナリ

所以契口 契ハ潔ト同ズ

贊以肝後 醴セシアト正後フニ肝ヲ
以テサカナトスル

皆振祭 皆ハ夫婦之振祭トハ
肝ヲフルウテ祭ルナリ

嚼肝皆實于菹豆 嚼ハ名フ之
肝ヲクヒノコシ

テノコリヲ菹ノイツテアル豆ハウチ
エイツシヨニ實テヲクワイフナリ此
ノ皆ノ字モ夫婦カ皆ナリ

三醴用丞色 色ハ合色之也夫婦各
ニ醴ツシテ凡ソ四醴ス

一度ツツ爵ヲ用ユルユ四爵ステ
ニテ用ヒタリユ正此ニ三醴トキニ

一爵ヲ夫婦各一ツ用ヒテ醴ス
ルナリ

贊洗爵 此ノ爵ハ蓋シ一醴ニ醴ハ
トキ已ニ用ヒシ爵ナラン

入戸西云々 入室ニ入ルナリ

皆答拜 夫婦ミナ贊ノ奠爵拜
シタルニ答拜スルナリ

坐祭亦爵拜 祭ハ酒ヲ祭ルナリ卒
爵ハノミシツツナリ

坐モ拜モミナ贊者ナリ

皆答拜與 夫婦皆ノ答拜シ
又々與ツタナリ

教氏曰三醴乃自酢交於常禮也自酢之禮
代人酢已耳洗爵象其為已洗也奠爵
拜象受也夫婦皆答拜則象同酢之
也與謂夫婦也又云酌于戶外尊之
戸室疑行下云贊酌以尊可見矣

自酢也 酢ハ人カラワレシケルト
コロノ名ナリ自ラトイフハ

贊者加自酌イフ也

主人出 主人ハ婿之出ハ室ヲ出テ房
中ニ入り服ヲ改ムルナリ

乃徹于房中 徹ハトモノクナリ
房中ユケテトリ

ノケクナリ

尊否 尊ハ内尊之夫婦ニ用ユルカ
リナリ故ニ房中ニ設ケス

說服于房 說ハヌクナリ

姆授巾 教氏曰記云母施衿結帽是婦自
有帽中也今既說服御亦併受此物

故母還以他り授之○義疏云蓋婦入室時
好後入立於婦右相禮至說暖乃授中而出也

御社于奥 婦ノ臥席ナリ奥ハ
室中西墻下ナリ

國婦人十五許嫁云々 賈疏曲礼云女子許
嫁又云女子許嫁

笄而字以十五為浪則自十五以上皆可
許嫁也

國因著櫻明有繫也 嫁ノ初東カテキ
タレハソレニ因ツテス

ハニ嬰ヲ著ケテク之明有繫ハハ已主
人アルヲ明スノ言也

燭出 出ハ室ヨリ外エ出ルナリ室
ノアカリナシニスルナリ

媵餽主人之饌 即千上ノ徹于房中ノ饌
具之人ノ餘ヲ食スルヲ餽ト云

右昏 禮成 呼則聞 教氏曰釋所以待戶外之
意

待見於舅姑寢門之外 見ヲ舅姑寢
門之外ニ待ツト

讀ムナリ待ハ夙興テ壻ノ寢室テシ
タクヲシテ贊者ノツレニ来ルヲ待ツテヲ

ルナリ舅姑寢門ハ壻ノ寢門ト別ニ
アリ古者十五以上六士者ハ父子異宮ニ

待見ノ見ハ舅姑ニ見ルヲイフナリ

席于阼 席ハ舅ノ席ナリ阼トハ阼
ノ上ナリ此ノ席西面ナリ下

ノ房外南面ハ姑ノ席ナリ

自門入 門ハ寢門ナリ即千舅姑
ノ寢門ナリ

奠于席 席上エ奠クナリ奠ハ筭ヲラク
之下ノ竹器ヲ衣ル之衣今ク升類カ

興答拜 舅興答拜スル之婦ノ進
拜ニ答フルナリ

婦還之拜 上ノ進拜奠于席ノ時ニ奠
テミツテ席ノ前エシバラク

立ツテナル之舅ノ答拜カデキルト又ハ
シメ進拜セシトコエ還リ拜スル

但シニニ進拜テ席トアレバ蓋シ拜シ
テ奠スルニアラス進拜シテ又ホ進ミテ

奠ルナリ奠スルトコト拜セシトコトハ
トコヲ別ニスルナリ故ニ奠シライテ又タ

モト進拜セシトコトエ還リタルナリ

國還カ老序處拜 先拜處ハ即千上
進拜セシトコト

國俠拜 前後テ二度拜スルヲ俠
拜トイフナリ

降階受笄服修 義疏云降階則至地
婦礼不下堂此乃降若

因上執束栗入升之礼而為之重始見也且
授笄者賤不可以升故婦就而受之脯

在邊則五脰此股脩當十挺所謂束
脩者也所授之人蓋亦婦人之侍御

者○賈疏曰如薑桂股脩者謂之脩不加
薑桂以塩乾之者曰脯散文則脩脯通○

笄ハヤハリ股脩ノ器之竹器ノ衣アル
モノ之衣トハ蓋シ今ノフクサナクノ類

カアレテ其ノ器ヲツマシテ出スマラン

國宰徹之 宰ハ舅ノ家宰之徹ハ席上ニア
ル筭ヲ徹スルヲイフナリ

右婿見舅姑

姑ノ算、授、行司徹之トアツテ自ラ徹シテ有司ヲタス之舅トハ異ナルナリ

舅姑ノタメニ贊者カワリテ婦ヲ醴スルナリ

婦ノ席ナリ

側尊無醴 側尊ハ一ツノ奠之即チ醴ナリ

疑立テ席西 疑ハ音嶷之正立テ事ヲ待ツテアルカク

ノノ、西ノ席ハ即チ上ノ厨子戸牖間ノ席ナリ

婦升席 室戸ノ西牖東ノ上西ノ位之即チ上ノ席子戸牖間ノ席ナリ堂ノ中ナリ

親徹且榮侍禮 親徹ハ坐取脯舅姑ニ社セラレシトイフトコロヲ榮トスルコトモチナリ

合升側載 升ハ昇工升ス之載ハ左ノ載ノ謂之合升ハ左右胖ヲ合セテ昇工ノホセシナリ

並南上 並トハ舅姑ノ饌ハ並ニ南上トシナリ

同牢侍 同牢ハ一豚ヲ姐工ノセアル

婦ノ食スルトキヲサスナリ

右醴婦

坐啐醴 坐ハ席ノ西南上東面シテ坐スル之賓ヲ醴スル納采ノト

建柶興拜 興拜スルハ婦ナリ建柶ハ柶ヲ解中ニハサミツノ解ヲ

手ニ持チナカラ興ツナリ

北面坐取脯 席ヲ降りニワリテ脯ノ前上ニキ坐シテ取ル

降出 階ヲ降り寢門ヲ出ルナリ

授人于門外 門ハ寢門ナリ

今文並當作併 並ハ並南上ノ並ノ字ナリ

今文ノ儀礼ノ本ニ並當作併トアルナリ

卒食 食ハ黍菽酒ノ類ヲ食セシ總名ナリ即チ三飯卒食ナリ

無從 後フニ肝ヲ以テスルノ礼ヲセザルナリ

薦黍肺ハ祭ルナリ

今文無成也 今文ニ成ノ字ナキナリ

席于北墉下 席ハ婦ノ席之

婦ハ徴ハ紗ハ席ハ前ハ如ハ初ハ 徴ハ舅ハ姑ハノハ饌ハ

席ハ北ハ庸ハ下ハノハ婦ハノハ席ハ之ハ如ハ初ハトハ

舅ハ姑ハノハ饌ハヲハツハラハ子ハシハ如ハキハナハリハ

婦ハ饌ハノハ餘ハリハヲハ食ハスハルハ

伊ハフハノハ舅ハ姑ハノハ食ハ餘ハヲハ饌ハスハルハ

國ハ嫌ハ滓ハ汗ハ 滓ハハハソハクハルハヲハケハルハ

伊ハ舅ハ舅ハカハシハ用ハヒハシハ故ハ之ハ

御ハ贊ハ祭ハ豆ハ黍ハ肺ハ 御ハ壻ハ家ハ

婦ハノハ豆ハ黍ハ肺ハヲハ祭ハルハヲハ贊ハ成ハ

スハルハナハリハ 媵ハ舅ハ舅ハノハ餘ハヲハ饌ハスハルハ

媵ハ御ハ饌ハノハ餘ハヲハ下ハ文ハノハ錯ハスハルハイハ是ハレ

ヲハイハフハナハリハ 饌ハスハルハトハコハハハ房ハ中ハ之ハ

右ハ婦ハ饌ハモハノハルハヲハアハキハラハコハキハラハ舅ハ舅ハノハ餘ハヲハ媵ハ姑ハノハ餘ハ

ヲハ御ハ饌ハセハシハムハ是ハレハ即ハチハ錯ハスハルハナハリハ

舅ハ姑ハ共ハ饗ハ食ハ婦ハ 賈ハ疏ハ曰ハ御ハ食ハ婦ハノハ於ハ

ノハ夙ハ興ハ婦ハ沐浴ハ云ハノハ婦ハカハ舅ハ姑ハノハ見ハエハ

シハヨハリハ舅ハ姑ハノハ婦ハノハ醴ハシハ婦ハノハ舅ハ姑ハノハ饋ハスハ

ルハテハ皆ハ舅ハ姑ハ復ハ堂ハニハテハイハテハ一ハ日ハノハ内ハノハ

一ハナハリハ此ハノハ舅ハ姑ハ共ハ御ハ食ハ婦ハノハ又ハ夕ハツハノハ

翌ハ日ハノハ同ハ日ハナハラハサハルハ之ハ義ハ疏ハ云ハ昏ハ義ハ厥ハ明ハ

也ハ婦ハ所ハ舅ハ亦ハ洗ハ手ハ北ハ洗ハ云ハノハ下ハノハ記ハ不ハ敢ハ

雖ハ無ハ娣ハ媵ハ先ハ媵ハ先ハトハ姑ハカハ醕ハスハルハ

スハルハ之ハ雖ハ無ハ娣ハトハ娣ハハハ尊ハキハユハ娣ハカハ

客ハナハリハ御ハ壻ハ家ハノハ人ハナハレハバハナハリハ

其ハ始ハ飯ハ之ハ錯ハ 錯ハハハ父ハナハリハコハモハクハ之ハ

舅ハ舅ハノハ餘ハヲハ媵ハ姑ハノハ餘ハヲハ御ハカハ饌ハスハ是ハ

ノハ餘ハヲハ饌ハスハユハイハレハキハヒハメハツハテハアルハ之ハ

故ハ曰ハ與ハ始ハ飯ハ之ハ錯ハハハシハメハ飯ハ舅ハ姑ハノハ食ハ

セハシハイハフハ之ハ言ハハハ舅ハ舅ハノハ男ハヲハ壻ハ指ハ御ハカハソハノハ餘ハ

饌ハシハ姑ハハハ女ハユハ婦ハノハ媵ハカハツハノハ餘ハヲハ饌ハシハテハナハ

アハマハフハ是ハレハ酬ハナハリハソハノハ酬ハ酒ハヲハノハ

スハシハテハタハガハ受ハテハ薦ハ左ハニハ奠ハクハガハリハ之ハ

北ハ洗ハ在ハ北ハ堂ハ 房ハ中ハ半ハ以ハ北ハヲハ北ハ堂ハ

室ハ相ハ連ハ為ハ之ハ房ハ無ハ北ハ辟ハ故ハ得ハ北ハ堂ハ之ハ名ハ

國ハ設ハ而ハ洗ハ者ハ 而ハ洗ハハハ南ハ洗ハニハ北ハ洗ハノハ而ハナハリハ

國ハ明ハ正ハ禮ハ成ハ不ハ復ハ舉ハ 正ハ禮ハ成ハトハ舅ハカハ

奠ハ酬ハ之ハ酬ハ酒ハハハ受ハケハタハバハカリハニハテハ

醢ハノハ左ハエハイハテハ舉ハゲハ飲ハハハルハヲハイハフハナハリハ 脯

コ共燕則更使人奉爵

國其燕則更使人奉爵 賈疏燕禮 獻酬訖別

右饗 婦

國使有司云 有司ハ留姑ノ有司云

留郷饗送者云 送者ハ女家有司也留郷ハ 送者ノ丈夫ヲ郷饗シ姑

ハ送者ノ婦人ヲ郷饗ス此ノ郷饗モ亦父 留姑ノ宮ニライテノナリ

酬以束錦 酬酒ハ受ケタニミテノス 謝テ奠クハカリ之共ノ酬酒

留郷ヨリサシテサイテアトウフキキニ 後フ束錦ヲ以テスル之錦キヲ贈ル

國爵至酬賓又後之云 爵ハ酬酒ノ 伊リアルナリ

爵ヲ賓ニ酬スルニ淫リテシタ束錦ヲ シメカエ贈ル之又後之ノ之ハ酬ヲサス

國凡郷饗速之 速ハ招ク之招 請 此ノ方ヨリ人ヲマリテシヨ

歸婦類于婦人 人ハ昏礼ノ供ヲシテキ 名丈夫之上ノ風興婦 沐浴云々ヨリ此ニ至ルテ皆ナ留姑ノ 宮テノナリ

國授之室 此ノトコハ留姑ノ 婦ハイニハ齊ニ同宮ナレバイニタ

留姑ノ室ヲ授リモアラ子尼何レ姑ノ代リニ ナレバハ此ノ室ニ来ルベキ之故ニト云

贈丈夫送者以束錦 叔氏曰以餽將行 者曰贈酬之ナ又贈

以幣以其勞於道路故也○酬スルトキ束 錦ヨヤルハ勿論之共 以時ノ束帛ノ外 又夕束錦ヲ送ルハ是レハ餞別ニスルタ

右禮送也

國就賓館 他國ヨリヨイリ来レバイッ 旅館カアルニチカヒノシ

賓館ナリ束錦ノ餞別ヲ共ノ館ニ 就テ贈ルノナリ

奠菜 席テ菜ヲ奠シテ留姑ヲ祭 ルノ始テ畜見スルナリ

國以筐祭菜也 筐ニ中ニ菜ヲイレツ ノ菜ヲ奠シ留姑ヲ祭ル

國盖用董 ケダシ奠菜ノ其菜ニ董 ヲ用ヒルナルベシト云

席于席奥 此レ留郷ノ席ハ留郷ノ室 中ナリ西墻下ノ南ナリ

席于北方 此レハ姑ノ席之賈疏云象生 時見留郷

國庶考妣之席 考妣ハ即千上ノ若輩 姑既没ノ留郷ナリ

國北方墻下 墻下ハ北墻下ナリ 南面ノ席云

祝盥 祝ハ宗廟ヲ主ルカシナギニ 盥ハ手アラキヨムルコト

婦盥于門外 門外トハ座ノ外ニ

皇舅某子 賈疏云某子言若張子 李子也○張モ李モ皆姓

坐奠菜於几東席上 既ニ地ニ扱シ捧

坐ハ進ニテ恭 前ニキ坐ス之扱地ノ處ニ

還又捧如初 如初ハ扱地ニテ捧スル如

婦人扱地猶男子稽首 賈疏云扱地

稽首拜中之重故以相況○扱地ハ手ヲ

捧ニ至リ首ハ地ニ至ルテハナクレモ婦人テハ

降堂階上也 賈疏云不直云降而云降

室事交乎戸 室テスルハ戸カツ

ツテタイガヒノハデケルヲイフ之今階堂ハ

禮器也 賈疏云室事交乎戸

祝盧牖戸 賈疏曰先牖後戸者先盧

牖後盧也閉之以鬼神尚

幽闇故也

婦出 出ハ室ヲ出ルナリ

迎賓送者

兼饗丈夫婦人如舅姑禮禮并有酬錦

之等○教氏曰婿饗 父亦當其目而

皆酬之以束帛也此禮之節宜在始嫁之

時因言 當見而及之故其文在此謂行

之於禮歸之後也

用昏所 昏ハバンナリ所ハアサナリ

受諸禰廟 受ハ納采ノ礼ヨリ親迎

廟ニテ受ル之此ハ女家ヲ主トシテ

アルニテリ也此記ハ大抵女家ヲ主トシテ

ウイニスレ文ナリ

用所使者 賈疏云家使向女家納采

問名納吉納徵請期者皆用所

主人ハ女父ナリ 幣ハヒキテモノナリ

婿家ヨリ使者ノモツテユク束帛之

皮帛必可制 可制ハ制シテ衣トナ

用昏婿也 賈疏云謂親迎時

賓不稱幣也 賓ハ婿家ヨリ

主人ハ女父ナリ 幣ハヒキテモノナリ

婿家ヨリ使者ノモツテユク束帛之

皮帛必可制 可制ハ制シテ衣トナ

スギナリ言ハ皮テ

モ帛テモミノ衣ニ制セラレルヨフナ用ニ

タツモノヲ用ユルヲイフナリ

腊必用鮮魚用射必殺全 腊ハ鮮

ラシキコシラエタテノヒモノ 用ユル之魚

ハフナヲ用ユル之必殺全ハ殺ハサカナ

トイフコナリ即チ腊モ魚モナ殺ナリ

其ノ殺ハキリミナクセズトニルテ用ユルナリ

右記行事時及所用物

賈政此並據同牢時也又二膳用鮮者義取夫婦日新之義魚用鮒者義取夫婦相俛必敬全者義取三歸全節無虧之理○養政必敬全兼魚酒言之亦重昏禮之意聘禮設饗皆皆有鮮腊特牲少牢魚皆用鮒此疏所取義據物以推耳云云

敬全不餒敗云云

敬ノギンメリメツシタルハ身カメレタ

リナゾシヤスケレニルナリノ全テ敬ハ身ノハヤクダレクナルヨフナリカナキナリ

國使主婦女賓云云

主婦ハ一家ノウチニテ主トナル婦人ヲ云

祖母アリ 社母カ主婦ナリ 祖母ハスレバ女ノ母シ主婦トスルナリ 女賓ハ一族ノウチニテノメイヤイトコナゾ ライフナリ

祖廟未毀 祖ハ高祖ナリ 女ノ高祖之國君ノ高祖之國君ト女ト

同ク高祖トスルトコナリ凡ソ福祖廟曾祖廟高祖廟ノ四親廟ニテハ照

カカレバ其外五廟ノヨリハ服カ免ユレ同族ノ縁ウスキナリ故高祖廟ノ毀ト未毀トテ礼カチゴフ之諸侯ハ五廟ニシテ太祖廟不毀ソノ次ノ四ツノ親廟ハ次第ク毀ソナリ故未毀ト已毀トヲ高祖ノ廟ヨツテイフ之此ノ一條ハ國君ト同族ノ士タル者ニヨツテ女ヲ立テタルナリ

教于公宮三月

公ハ女ト高祖ヲ司タル國君之三月ハ

祖廟已毀云云

高祖廟ヲ毀テハ四親ノ服モタエウスキユントナル之

教于宗室

宗室ハ國君ヨリ別レ出シ一族ノウチニテノ其ノカシラ

ノ家ライフナリ 魯國孟孫ノ類之

高祖高祖為君者之廟也

為君者ハ即チ高祖ト君トハ國君ノ

以有總麻之親

總麻ハ喪服之四親内ニテ高祖ノ喪ニキル服ナリ

大宗之家

公族ノ中ニテ長子タルモノノ家ヲ大宗トスル之魯ノ孟孫氏ノ如キ公族

ノ中テ長子ノ次ニアル弟ニシテ兄弟ノ別レ家ハ小宗之魯ハ孫氏ノ類ナルカ

右記問名之儀

始扱壹祭 扱ハ柶醴中建ル之蓋シ醴ヲ祭

右記祭禮 取脯之儀

又扱再祭

又扱ハ又々祭ツテ又々扱ヲ扱シ之ノ再祭ハニツ祭ルナリ上

所謂以柶祭醴三者是レナリ

右取脯左奉之

之レトハ即チ上ノ脯ヲサス之言ハ一ツ右手テ脯ヲトリテ

又々左手モ出シテ之レヲ奉シ持ツナリツイニ両手ニテサメクルライフナリ

反命謂使者問名納吉云云

問名ノ日ニ賓ヲ醴スル

一ハ經文ニ見ユテシタラシ其ノ他ノ納吉納徵請期モ經文ニハ見ユ子氏一度一云々ハハリニナ賓ヲ醴スルノ礼アルナリ故注云反命謂使者問名納吉納徵請期云云一度ニ及命スルヲアレバナリ

總麻之親

右記符女及敬

右記問名之儀

攝之内文 北ハ上ノ靴皮ノ皮ノ鹿皮ナリ
攝ハタマシテシノワノヨツタトコ

ロライフナリツボニ一ノメテツカニエルナリ
内文ハアノクシ皮ノハラノホフヲ上エムケル
ヲホフ前足ニラ左キニキリフトニラ右キトリ
足ヲ上エ向ケテ持テハ自ラ皮ノハラノホフ外ニ出ニ

兼執足 兼ハニツイツシヨニ執ル之注見エタリ
ハハ鹿皮ニツイテハ足ナリ

左首随入 注ニ左手執前足トアリ前足
ヲ左手ニレハ自ラ皮ノ首ハ左

異ニナリ 入ハ前上後ニ相隨フテ入ルニ右左ニ並ヒ入ニ
ニナルニ直ニハ靴及者二人ハ鹿皮ヲ各ニ
一ツツテ相隨フテ席門ヲ入ルナリ直

西上 鹿皮ヲ執者二人ノ立ツテアル位カ
西ヲ上トスルヲイフナリ

□中庭位併

者礼應爾也知此士礼随入亦礼應爾非為席
門狭小之故○義疏後スベシ鄭註ニイレリ

中庭位併 中庭ハウチニワトフコト
位併ハ靴皮者位ヲツフ

賓致命釋外足見文 賓カ階ヲ升リ
堂上ニテ致命ノ

時ニ足ニツイ靴皮者カ靴ルトヨノ皮ノムカフノホ
フノ前足一ツ後足一ツ手ヲハナシムカフエハナリ
トヲトシテ首足一ツ後足一ツハヤナリ手ニ持ツテ
ブルナリ是レ外足ヲ釋之ハジメハラヲ出シテ

皮ノセナヲツミンテ内ニシテアリシユエ外足ヲ
テムカフエ半分皮ヲヒラケハセナカ出ルユエ見
テ受ル 幣ハ束帛ナリ受ルハ堂上ニテ

出子後 後ハ靴皮ツテ立ノテ居ル者ノ後
ナリ

一在南 此レ靴皮者二人ノ立ツ位ノ處ヲイフ
言ハ庭ヲ三ツフシニ命ケタトコロデ

攝猶辟也 辟ハキクノテシノワヲヨ
タルトコロノ謂ヒナリ

左首象生 首ヲ左ニスルハ生ギタルニ象
タル之凡ソ生ギタル禽ハ

執禽者首手 首手ハ左首ノ誤リ
之首手當為左首ニ

隨入為門中厄狭 言ハ門中カセニユエニ
並ニ門ニ入りカタナリ

故ニ隨フテ門ヲ入ルナリ義疏云聘記凡庭
實隨入左先彼人君之席門非阨狭而亦隨入

遂坐攝皮 立キナカラ皮ヲ受ケ受トツ
テ遂ニ坐スルニ攝皮ハ又ハ

シノ靴ツテラ シカク内文ヌナリ

逆退適東壁 二人ノ受皮者

庭實所用為節 庭實ハ庭ニアル鹿
皮ノヲイフナリ

賈疏云賓堂上致命時則庭中靴皮者釋外
足見文主人堂上受幣時則主人之士於堂下
受皮是其節也言堂上ノ致命タリ受幣
タリスルヲ見テ釋外足タリ受皮ノ節 スルニ

以主人為官長 受皮ノ士ヲ中ニ下ニトス
是レ主人ヲ上トスルニ

故ニ受皮ノ士ヨリハ主人ヲ以テ官長ヲ
モヤクトスベキトナリ

右記 靴皮

右記醴女至升車

父醴之于房中 卒而 之ハ女ヲサスナリ
高而ハ女南面ス

備醴ヲ薦ムルニ

必有正焉 正カクシヲシナラスキニ即チ
下ノ衣ヲ箝カラ正スカタスル

後者二人坐持几相對 二人ハ蓋シ婦人ナリ
二人相對テ持几

婦人寝門 此レ婦ノ舅姑ノ見ルヲ記シタ
ルナリ寝門ハ舅姑ノ寝門ニ

尊者徹尊 尊者ハ酒尊ト玄酒ノ
尊トニツカ子イフニ

酌玄酒三屬于尊 玄酒ハ水ノソノルヲ或ル
器ニテ酌シキテ玄

酒ヲイレル尊ニスコシクニ三ニ注ク之酌ハ尊
中ヨリ酌ムニ非ズ尊ハ玄酒ノ尊ナリ酒尊ニ異ニ

棄餘水于堂下階間 玄酒尊ニ三度
之水カ器ニノコリアルルニ然レ然水之階間ハ作
階ト西階トノ間上水ヲコホスナリ

加勺 酒尊ト玄酒尊ノ二者ニ勺ヲ
加エラクタイフナリ 教氏コ

玄酒清水也玄水色共酒並設故亦以酒
名之云酌則以勺也棄餘水者不欲人
褻用之也徹尊加勺兼指二尊而言

洗水 洗ハアタラシキキヨキナリ
洗水ハキヨキ水ナリ

貴新 玄酒ニ新ヲ貴スニキヨキ
オラ用ユル之故ニ貴新トイフニ

凡フ玄酒ハ大古ノカタヲノコシ本ヲ忌レヌ
タメニ設クル一口モノムニアラザルナリ

更爵自薦 更爵ハジシカノミシ爵ヲ
ヲサメ別ノ爵ニシテ更上

酢スルナリ自薦ハ自ら肺醴ヲ薦メ
舅ニアトフルヲイフナリ

不敢辭洗 洗ハ舅ガ婦ニ獻スルトキニ
爵ヲ洗フニソレヲ婦カラ

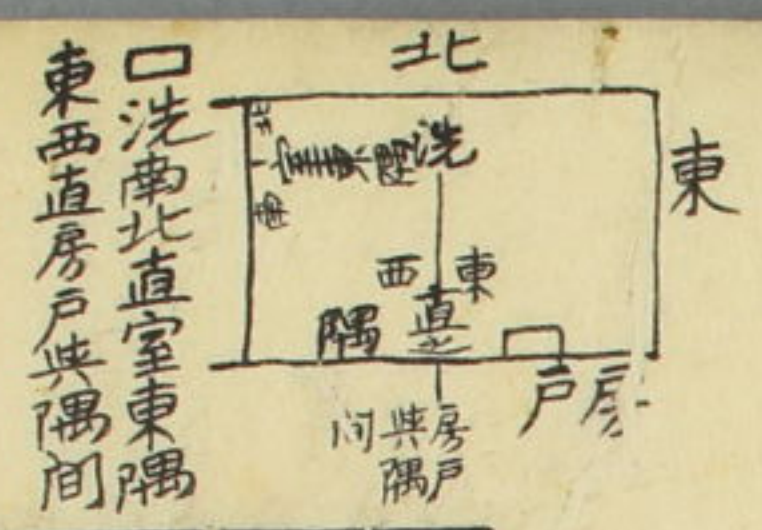
シタヒセサルニ賈疏云此當在婦酢舅之上
退之在下者欲見酬酒洗時亦不辭故也

舅降 階ヲ降り南洗ニ洗フナリ

辟于房 辟ハ婦ガ辟ルニ舅降ルトキニ
不敢安於堂上ナリ故ニ并ケル

不敢拜洗 舅ガ洗シ爵ヲ口ケテモ洗フ
タルヲシラヌカホシテ拜セザ

ル之教氏曰此謂舅將獻婦之時也舅降
謂降洗也婦辟于房者既不從降又不敢



右記玄酒之節

右記箝

乃取之 之トハアタラシキ水ヲサスル
即チ洗水之洗水ヲ取リ臨時ニ

酒尊中ニ三注スルヲイフナリ
賈疏云三注中ニ酌取此洗水ニ度注

于玄酒尊中礼成於三故三注之也

箝猶被云 被ハ箝ノ衣ノヲモテテ
イフナリ

加于橋 橋ハ箝ヲスケシノタイニ

舅姑其鄉食婦 共當為共字ノア
ヤマナリ

篋在東 篋ハ箝ノ緋カイレテアル
ノ洗在北堂ノ洗ノ東ヲ云フ

直房戸共隔間 隔ハ屋中ノ西南ノ隔ニ
戸ハ東中ニ其間直ルニ

安於堂上故宜辟也從降而辭洗升堂而捧洗丈夫於敬者之禮也婦人於丈夫則卑是以是禮不可得而行故也
無降 婦人ハ堂ヲ降ラザルナリ

國以北洗篚在上 北洗ハ北堂ニアル洗ナリ 篚ハ爵罍シイレテカ

器ナリ右ノニツミナ堂上ニシテ二階ヲ降ラハシテスム之故ニ注云無降者一在上ノ上ハ堂上ノ上ナリ

右記總良婦及婦人相親食之事

右記此行之期

行ハラコトヲカテキルトイフコト婦カク行 齋祭ヲ行フヲ得ベシトイフキニテ祭行ルトイフタルナリ此祭トハ諸國辰祭ヲサス之舅姑庶見スルトハ別ナリ

婦不饋 婦ハ庶婦之饋ハ舅姑ニ饋ルハ饋ナリ

國不鄉食也 鄉食ニハ牲正アリ醴アルナリ不鄉食ハ郷食ハ郷ナリ

國不酬酢曰醢 酢ハ婦ヨリ舅正酢スル之酬ハ姑ヨリ婦ニ

酬スノ謂之今テ酬酢ナキハタゞ舅ノ爵ヲ一度ハツカリ婦正サスギリニスル之

國其養統於適也 其養當作共養ナリ共ハ共字ノ

右記 庶婦 誤リナリ共ハ供ト同シ舅姑ヲ供養スルノ謂之適ハ適庶ノ適ナリ

行辭曰云々 此ノ昏辭トイフハ古名醴也吉納徵請期

口上ヲミナスハ合セテイフ之故ニ此ノ昏辭ニ口上ハ下ノ請期曰ノトコニテヒツカケテ云

フタルナリ但シ此ノ昏辭曰云々一條ハ車ノ内采ノ口上ノミ之讀ニテ自ラ知レベシ

國擯者請事之辭 請事ハ擯者ヨリ賓正請フ之告トハ

賓ヨリ擯者正告ル之擯者請事賓告之辭ノ心ナリ

國可妻也 孔子ノ言ヲ引レテ可妻ノ字ヲ出シ上ノ室猶妻也ノ妻

字ノ引証ニスル心ナリ

國擯出納賓之辭 納ハイレルナリ 門外ニナル賓ヲ

ウチニ納ルナリ 言ハ對曰云々ハ賓ヲウチニ 辭トイフキニ

致命曰云々 賈疏曰此使者升堂致命於主人之辭若然亦當有

主人對辭如納徵致命主人對辭文不具也○上ノ昏辭曰云々對曰云々

ニナリ門外ニテ擯者ノトツギニテ使者ト口上ヲ云々ナリ此ノ致命曰ハ使者カ堂ニ升リ主人トツギキタヒニ口上ヲノヘルナリ

問名曰 問名テ曰ト讀ムハカラス問名ニ曰トヨムベシ問名ノ儀曰云々ノキミナリ

此ノ曰モ下ノ對曰モミテ使者ト擯者ト門外テノ口上之此ノ條ハ堂上ノ口上ナシ

國不必其主人之女 賈疏曰問玉人女為誰氏者然ト主人之

女假外人之女收養之也云々○ 賈疏ニテ鄭注ノ意ハハハ曰白之然ル此ノ鄭注ハ終ニ取ルベカラズ叔氏曰為誰氏之氏謂女之伯仲也戴媽為仲氏亦其一

年刊名而曰誰氏不敢褻之教也

備教而擇之 改氏曰此擯者傳主人

備教而擇之若曰不專云己女然謙也

主人則以女名對之○教氏ノ説ヲ云スルニ

備教ハヨメニトル女ヲアレハコレトヲ

トコトヲモワレシ女ノ 教ノウキエ

此ノ方ノ女モ備上而シテ終ニハ此ノ方ノ女ヲ

一説ニ教ハ禮教之納采ハ即チ備教而擇

者皆不言行礼之物此乃言儷皮束帛

至命曰云 此レ堂上ニテ使者主人

故曰重禮此亦擯者傳主人 拜也○又云

致命之辭宜在敢不承命之後蓋因而

遂記之耳 其次則見於納采

請期曰云 賈疏曰申重也謂前納采以後

使請吉日者今將成昏須及吉時但吉凶不相

吉日以成昏禮也○某八嬖父ノ名ナリ

其也八使者ノ名ナリ

禮曰 此ノ口上ホタミナ擯者ト使者

主人辭 老人云ニ八字ヲ主人ノ

固如故 賈疏云固為堅固以再請

納吉曰云 此ノ白ト下ノ對トトミナ

子有吉我共在 賈疏曰云我共在以其夫

吉可知○夫家ニテ娶ルヲ筮シ吉云ニ

納徵曰 此レホタ擯者ニ傳ニテモフ

不億度 億モハカルノ一ハハカラ

謂卒有死喪 亦ハニフカナル

此三族者已及子皆為服期 已トハ

父ナリ子トハ壻ナリ 服期トハ期服

三族ノウキカラ喪カデキルト又ハ其

欲及今之吉也 今日ノ吉時ニアタ

雜記曰大功之末云 賈疏云大功

廢成禮若期親内則故舉合廢者

而言 云云 廢

□大功之末

其也八使者ノ名ナリ

吉日以成昏禮也○某八嬖父ノ名ナリ

使請吉日者今將成昏須及吉時但吉凶不相

請期曰云 賈疏曰申重也謂前納采以後

者皆不言行礼之物此乃言儷皮束帛

大奴嗣徽音

申前事也 前事トハ納采納徵ノ類ヲサシテイフナリ
此ノ前受命トイハ上ノ請期曰ニ使者ノイフタカイ受命トイフト同ジナリド
イフモミナ此ノ以前ノ納采カラ此ノカタ度ニカサテ命ヲ受テテリトス
イフ心モナリ

朝日 上ノ請期ヨリ使シ曰ニテニ擯者所傳活也コノ期曰是レ

使者堂ニサリ主人ニ向ヒテ言フナリ 某日某ハ吉日ノ甲日カ乙日カノ

主人ハ婿ノ父ナリ 命ハ使者ノハシジノ

日上ナリ 教氏曰命謂使者之言也

先妣之嗣 先妣ハ此ノトコロテハサストコノ壻ノ祖母ニアタル之義疏云
姑在而云嗣先妣者以其昭穆當也

大奴嗣徽音 賈疏云大雅思齊篇

賓至擯者請對曰云 此レ親迎之此ノ對曰ト下

對曰トミナアル擯者ノトリツギニ

施衾結帨 衾ハ衣ノ小帶ナリ蓋シ今ニ時ノシタガクニ

類ナルカ帨ハ佩巾之ヤハリテ又クニ類ナルカ

無違宮事 教氏曰宮猶家也謂凡宮中之事不可違尊者

右記五禮之辭

之命也婦人無外事故惟以此戒之

庶母及門內 門トハ廣門ナリ嫡母ハ堂ヲ降り送ラス父ト

ヲメジテ堂上テ女ヲ戒メルバカリ之庶母ハ卑シ堂ニ降リトイフナリ

盛悅巾之屬 盛トハイレトシ之般筆ハ巾中メツクイルル囊口ナリ

示之以衿般筆者 庶母ノ親詣衿般筆イフテ視セルノイフ

本文ノ視諸衿般筆トイフハ他日ニ父母加今ニ戒メシ言ヲ思ヒ出スハ此ノ衿般筆ヲ視ヨト視ノ字ヲ他日ノ視ルニス然ルニ此ノ言ヲイヒキカストキハ此ノ度衿般筆ヲユヒサシテセルニ是レ示之以衿般筆者ト鄭注示ノ字ヲ出ハハズナリ

不嫌忌之 不嫌ハ無嫌ト同ジキナリキツカイナキコトナリ

言ハ勿論ヨク記シタルトハ此ノハハルニ嫌ヒアブナゲナシ故ニ衿般筆ナツノイモイ出スルシノヨフナリヲセハルナリ

視乃正字今文作示俗誤行之 視ヲ今文ニ示作ル示ハ俗字之視ハ正字之

見乃正字トハ示ハ俗字トイフニ對シタル言ニ賈疏云案曲礼文童子常視母註云視今之示字彼註破視後示此註以視為正字以示為俗誤不同者但古文字少故眼目視瞻与以物示人皆作視字故此註云視乃正字今文作示是俗人以今示解古視故云誤也彼註云視今之示字者以今曉古故舉今文

右記親迎送女諸辭

示而兩註相兼乃具也。俗誤行之トハ之ハ示字ヲイフ之言俗人カ誤ツテ示ノ字ヲ行ヒスニシテツテ示ハアマリ視カ正字ナルヲヲシラサルナリ

國適長子也 賈疏云大宗ト示皆是適妻所生長子

國命使者 賈疏云謂納采至請期

國是 有父者 是 其有一間當有一有字

國禮七十老而傳 七十ニテインキヨシテ家ヲ子ニ傳フルナリ

國八十齊喪之事不及 齊ハ齊ト同キカ齊ハモノ

モハハ十イニキヨ身ヲモイニ喪クセ世話カマラヌ

國子代其父為宗子 代ハ代ツテ萬事ヲ引ウケ

テ宗子トナル之為宗子トハ宗室ノ家ノ主人トナルヲイフナリ

國其取也父命之 取ハ娶ルヲ云フニ言ハセシカラケル

インキヨシテ其子代為宗子ツテフレ氏餘ノ事ハトモアレ妻ヲ取ルニカギリイカホド老ヒテツテモ父カツリサユスレハ昏礼ノ使者ハ必ズ父カ命ジテ宗子ハ自ラ直ニ使者ニ命ズルコトヲ得サルナリ

稱其宗 宗ハ大宗小宗ヲカキテ言フ稱トハ名前ヲカリ稱スルニ

言ハ昏事ニシテ使者ヲ命ズルハイソテモ宗子カラ命ズルタイニシテ宗子ノ名ヲカリ稱

右記命使

不之然ル宗子ヨリ實ニ使者ヲ命スルハ其ノル之タメ宗子ヨリ命シナイイフ名目ノミヲカリ稱スルハカリ之數氏曰支子宗子之族人也此指其無父母共親兄弟而言稱其宗子命使者宗子尊也言稱其宗則宗子自命之矣下兄弟稱其兄亦然

若不親迎婦入三月云々 此一篇ハ若シ者ガ婦ノ父母ヲ往テ見ルヲ記シタル之ヲ記迎トハ婿ニ父ナキモノ之蓋親迎ハ父カラ命ジテ婿サテ父命ヲ承ケテ往テ迎フニシテ親迎ノ禮ニ故ニ父メケレハ婿ガ命ヲ承ルトコロメキユニ親迎ノ礼ハ行ハズ代ニ使者ヨリ婦ヲ迎フ婿ハ子ガル之婦ハ入婿家ニ

此ノ一篇ハ婿ノ親迎セザリ

婿見曰云々 見ハ婿カ往テ婦ノ父母ヲ見ル之曰云々ハ尔是擯者

ノトリツギニ下ノ主人出門左ノ言始テ賓主對面ス其ノ上ハ此ノ曰云々ハ婿ノ口上モ主人對曰ノ口上モ何レモナ擯者

謂使人迎之此指無父者也記曰父醮子而命之迎昏義曰子受父命以迎是親迎者必受父命也若無父則子無所承命故其礼不可行婿見之於婦之父母也親迎之時主人迎婿以入母亦于婿婿奠鴈而降是亦見婦之父母矣若不親迎則婿須別見必俟三月若婦無舅姑者三月而廟見故此婿之行礼於婦家亦以之為節也下文云某之子未得濯概於祭祀然則此在廟見之後祭行之前乎

昏姻者婿婦兩家相洽之通稱觀者卑見尊之辭

某以得為外昏姻 請覲 外ノ字ヲ

用エルハ母ノ親類ヤ妻ノ親類ヤスベテ女ノノイッケナレハ皆ナ外字ヲ用エルナリ

外戚ノ外字ト同シ請覲トハ婦ノ父トヲ覲ルヲ請フナリ

得為外昏姻之教 教ハカクニ外昏姻ノカズノウチエ加ルト

イフキミ之得ノ上ニ雖字ヲ入レテ見ル心ヨノハ下旬

未得濯概於祭祀 濯ハ洗ナリ概ハ拭也濯概スルトハ

未得濯概於祭祀 拭也濯概スルトハ

祭祀ノ器ハモノヲ濯概スルノ未得濯概於祭祀トハ婦カマケ婿ノ家エ入リテモ婿家ノ厩テ先祖ノ祭祀アツカリ行フヲ得ズシテフルヲ云フ之此トヨリ祭祀トイフハ上文モアリ三月也後祭行ノ祭ノフテ婿ノ先祖ノウチ何レノ厩テモ忌日アタリシ厩ヲ祭ル之此ノ祭リヲ助ルハ昏礼後三月ヲ経テカラノ之昏礼シテモイニダ三月ヲ経ヌウチニハトエ忌辰ノアタリシ厩アツテモ其ノ祭リハアツカレザル之即チ未得濯概於祭祀ナリ故ニ教民ノ説テハ婦人イニハ婿家ノ祭祀ヲ助ケタノナイウチニ先ハ婿カ婦ノ父母ヲ見ルコトヲシタリ但シ婦カ嫁セシ時ニ婿家ノ舅姑カ既没シレバ三月ヲ待ツテ必ズ舅姑工厩見スルノ禮アリ此ノ厩見ハ三月然後祭行ノ祭トハ

自ラ別ツ之ヒツキヨヲ舅姑ヲ見ルニカメドリ厩見スルニテ忌辰ナゾアタリシ祭祀ヲ助ル

類ナゾトハ異ナル之○教氏曰濯概於祭祀謂祭祀則濯概祭器也此北主

婦之事乃言其子亦謙辭也

是以未敢見 婦ノ父母カ未ダ敢テ婿ヲ見ハルナリ

今吾子辱請吾子之就宮 吾子ハ婿ヲハ辱スル之就宮ハ宮ハ家ノ如シ家ガ工ルコト

言ハ婿ハシシノ家ヲユテラレ此等ノ往見ト之

將走見 走字ノ義ハ敢テ緩フセサルノ謂ナリ走見ハイツギ往テ見トミ

以白造猫曰屋 賈疏謂以潔白之物造置於猫器中是汚白色猶實門外屋辱

奠摯再拜出 摯ヲ庭エスケシテ再拜シテ大門外エ出之

出内門 内門トハ寢門ナリ

國婿見於寢 聘礼見賓客ヤ士ノ親迎ヤハミナ厩ニテ

相見ル之此ノ婿ノ外舅姑ヲ見ルハ又々自ラ別ツ之

相見ルヲ云フ之故ニ主人出門ノ門モ寢門ニ

摯者以摯出請受 摯ハ即チ上ノ奠出ハ大門外エ出テ摯ヲ賓エ返スナリ

請受ハ教氏曰受謂主人欲親受之也

受摯入 摯ハ摯者以摯出ノ摯ナリヤハリハシ持參ノ摯ハ外門ニ

主人再拜受 受ハ手ツカラ授受ス
ル之位マハリ寢門外之

出已見女父 出ルハ外門外エ出ルナリ
言ハハ己ニ女ノ父ヲ見タレ

ハ先ツ一タヒ外門ヲ出テアラタメテ又タ
女ノ母ヲ見ント欲スルナリ

廬扉 扉ハ左扉一ツ之左右扉ヲ廬レバ
廬門トミラ之左扉カリ廬必故廬扉云

主人之婦也 婦ハ妻字ノ誤リニ
主人ノ妻之女ノ母之凡

ツカレハキラズ一ツケンノ家ノ中ニテ
カシラタル女ナラ主婦ト稱スル之

見主婦者兄弟之道云 賈疏云爾雅母
共妻之黨為兄

弟故知主婦於婿者兄弟之道也

婿立于門外 門ハ寢門之婿ハ寢門
外ニ立キ主婦ハ寢門内ニ立之

婿出 出ハ大門外エ出ルナリ

主人請醴及揖讓入 叔氏曰於婿之出
主人送之門外因

請醴之婿亦禮辭許主人乃與之揖
而入也入寢門則三揖至于階三讓升

也一獻親之也云 醴之謝其辱

主婦薦 主婦ハ主人ノ妻之女ノ母之
薦ハ脯醢ヲ薦ルノ謂ヒ之

叔氏曰主婦薦示夫婦共此禮
也

奠酬無幣 奠酬ハ酬酒ヲノズシテ
ツクハカリ之無幣ハヒキデモノ

ノ東帛ナゾガナキナリノ叔氏曰奠酬
婿奠主婦酬解於薦東也必云無幣
若嫌其如士冠醴賓一獻之為也士
飲賓不必有幣其或有幣有為之耳
此禮畧如舅姑饗婦之禮而無俎其
他身者以意求之

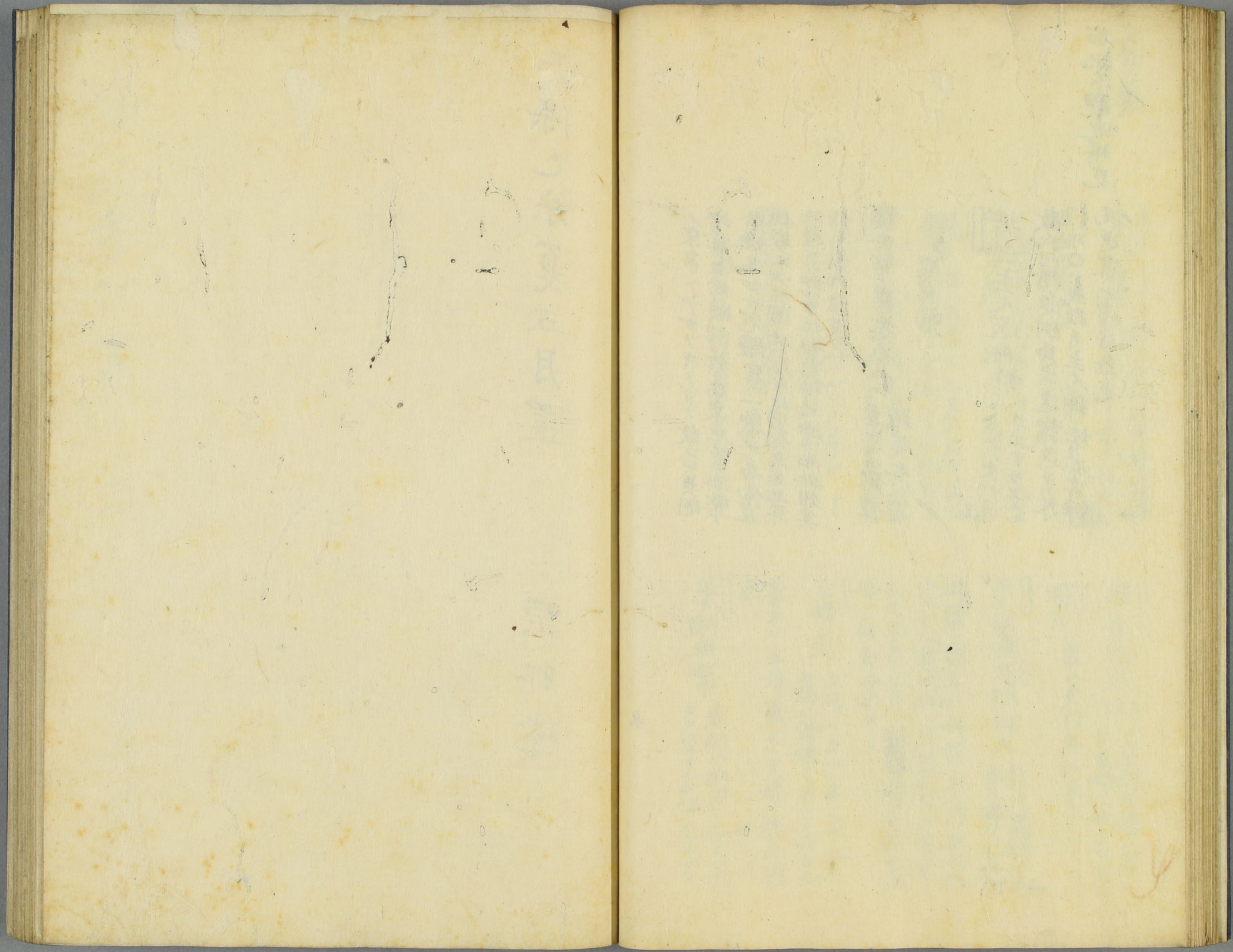
無幣異於賓客 晉疏云士冠禮
醴賓昏禮饗

送者皆有幣

婿出主人送再拜 出ルハ大門外
エ出テカエル之

叔氏曰婿奠酬即出送謂送于外
門外○義疏云主人拜婿不答拜
凡送賓之禮皆然也

右記不親迎婿見
父母之儀



天保乙未夏五月置

栗邱堂

儀禮卷之二

士相見禮第三

國序其意也

士相見之禮

相見ノ相ハ士ト士ト相見ルノ相ナリ義疏ニ双方相見往

来スルニヨリ相見トイフトアルハ恐クハ拘泥ノ相字トホドヲモクミルハ穿鑿ニ似タリ

復用居

牒ハ乾象ノ終名ナリ此ノ牒ハ雉ノ乾シタルヲイフナリ

曰某也

曰ハ取次ノ擯者トムカヒテイフ曰ナリ

取其耿々

耿々ハミナヲノリントタツテラルヲイフナリ

即千交有時別有倫是レ之雉ハ雌雄ニ別アリ不時ニハミナリニ交接也

不可生服也

生服ハ生用ノキミ生キナカラ用ヒラレサルノ

服ハトリアツカウトイフキミノ字義ナリ

古文云固以請也

此ノ也字ハ原本ノ注疏ニナシ和本ノ誤

リ行字之共益シ古文ハ固請ノアヒタエ以ノ一字ヲハサミイレルナリ

言如固請

ハジノトフリニ請フ之如固ハ如故ト同ジキ之ツノ請フ口

上ハ即千終賜見也ト之益シ上ニ請終賜見ト一度ステニ本文ニ見エテアルハナリ

古文曰某將見

古文ニハ將字ノ上ニ某ノ一字カ多キナリ

燕矣

燕ハクツロギウキトケテハナスクライノク之宴飲ヲイフアラズ

臣初見於君

此レハ此ノ本文ニモシモ着切ノ注ニアラ

右初相見

不イラヌノヨナル注ナレ上カラ注シカツツテキタツイテニ注セシナリ

主人復見之

主人ノ字ニ女ヲ受ケタレ凡
實ニコトハ實トナルナリ

正君ハ既ニ賓對曰ト賓ニシテカイト
アリ主人對曰ノ主人ハ此ノ主人ニハアラ
ハルノ復見之トハ先方ヨリ一タビ此
正来リ見シユエソノ各ニコトハ此ノ方ヨリ
先方正往キ見ルノ既ニ一度、相見シユ此
ノ度ハ復見之ト復ノ字ヲイレルナリ
不敢以聞 教氏曰謂不敢以還贄之辭聞
於主人特固以請於將命者耳請
謂請還之

異日

先方ノ来リ見シ日ト此方ヨリ復
見ノ日トノ日ノ異日同ヨリフニ

送執手出

執手ヲ主人正送リワタシテシ
一ツテカラ出テ去ルニ

右復見

終辭其擊

辭ハ大夫ヨリ士正辭スルニ
執手ハ士ノ持キ来リシ擊ニ

右士見

答ハ答礼ナリ 上ニ所謂
復見之ノナリ

辟正君

正君ハタビイニツカエテアルホシ
トフノ君之舊君ヨリヲモキナリ

故君臣ノ道アレモ舊日ノハ正君ニ比スルハ
少シニシヤベツアル之然ルニ夕教氏曰賓退
而主人不揖送亦異於不為臣者也云

言使某

某ハ擯者ノ名之言ハ主人カ
某正マカセテトリハカラワシ

右言

一ト之是レ主人ハ此ノ一ヲツカリシラス体
見テ大ナリ是レ即チ尊君也ノ意ナリ

繫其足

繫其足ハツナテクニルナリ
雁ハ坐キタルヲ用ユル故

ニ是ヲクミリウゴカヌヨフニシテ用ユル之
下ノ羔ニ坐キタルヲ用ユルニ同クニ夕四足ト
モニウゴカヌヨフニシバリテヲイテ之
レヲ執一ナリ 羔ハ小ナルヒツジナリ

不黨

黨ハヤハリ人ノ朋黨アルヨフニ
一ツツカレワカレカタルヲイフニ

秋獻麇有成礼如之

賈疏案周礼庖人云
秋行擯麇則獻當

在秋時故云秋獻麇也コノ麇ハ鹿子ナリ
成礼ハ周礼ニ定リアルトコノ礼ヲサシテ
有成礼トイフ之如之トハ即チ上ノ秋獻
麇ノミ字ヲサシテイフニ

孤之執也

孤ノ字ハ孤卿ノ孤ナルベシ
蓋シ麇ハ孤卿ノ執ナリ

其礼盖謂左執前是右執後是

右夫

如士相見之礼 教氏曰此相見之礼蓋兼
復見者言之也上下之夫尔

謂君也

君ハイツレ此ノ方ヨリ上ニ
坐ラレハツノ前正イタル

ハ至下トイフヘギ之至下ハヤハリ前ニ
至ルトイフト同ジキナリ

賈疏案經云左頭則其雉屬同是也此
云執會者左首此鄭又云執之蓋謂左執
前是右執後是者此釋經麇執之據四
足而言之云云 其礼トハ麇ヲ執ル
ノ礼ヲイフ之前是後是ハ鹿卿ノ四足
ナリ

右大夫庶人見于君

右他邦之人見于君

右燕見于君

中視抱容其愚且為敬也

右言視之法

士大夫一也 一ハ同ノ心口之言ハ士モ大夫モ恭ヲ為ルハ同ト

警 是レ蓋シアヒルノ類之

再拜執首受 受ハ上ノ使某還執事ノ執事ヲ受ケトルナリ

以食具告 告ハハナシテ家ノ信一カ君子ノ食ヲ具シテ君子ニ告ルナリ

則請退可也 言ハ君子カ欠伸シタリ或ハ日ノ時數ヲ問タリ或ハ君子ノ

食時ニナツタリ或ハ君子カ起ツテスワリカエタリメカスルノアルトキハ長坐セズトカエルハギナリ 欠伸ト問日ト告食ト改居ト以上四ツノウノドレモ一トトアレハ退ヲ請フベキ也 問ハ君子カ問フナリ早ハ發ト同ジキナリ

謀動也 自ハ君子カ自ラ變動スルコトイフナリ

請退可也 夜ノ時ニ向フタリ或ハ夜食ヲモ君子カ食スルトキハレハ退ク

ハシト之然ルニ以上ノ向夜膳革ノ二ツハカリアラズ或ハ欠伸シ或ハ改居ノ二ツアツテモホク退ヲ請フベキ一欠伸改居ハ上節ニイフテアルニ此ニ又テ省シナリ

幸物 一ハ五辛ナリ葱薤ノルイ之葱ハ子ギ之薤ハニクナリ此ノ類カ五ツ

右侍坐アリ皆ナクシツカカラミツタル味ヒ之于君子故ニ五辛トイフ此ノ類ヲ葷トイフナリ

君祭 君カ自ラ食ヲ祭リタモフ之祭ルハカリテイマカ飯セズ食セザル也

先飯 臣先飯スル之飯ハメシヲクヒスルナリ此時君ハイマカ飯セズ故ニ先飯ノ先字アリ

示為君嘗食也 嘗食トハドクミヲスルコトナリ

今云啗嘗膳 今ハ今文ナリ

品嘗食 言ハ庶羞ヲ品ゴトニ嘗メテドクミヲスルノナリ

於尊所 尊ハタルナリ

若欲共酌 酌ハ爵ノ酒ヲ飲ミ盡スノ謂之 言ハ君カ爵酒ヲ盡シテモ欲ス

坐取屨 坐ハ西階ノ下之既ニ退キ堂ヲ降リシノ下ノナリ

隱辟而后屨 隱辟ハ注ニ俛而邊巡トアリ 俛ハス之言ハカミンデス

リズナカタワキエサハテイテカラ 屨ハ

偏嘗膳 御ハ飯ノ外ニアル庶羞ヲ一ニ嘗メソツメル之既ニ先ツ飯ヲクヒソツテ

又々庶羞ニテニナリニ此レ臣タルモノ君ノタルニ毒ミヲスルハモキヲ示スナリ

然ルニ先飯モ此ノ嘗膳モニナクヒソツメルハカリニテ飯シツクシ嘗メソツクスハアラサルナリ

飲而俛 飲ハ食時ニ酒ヲ飲ムカ蓋シ先飯シ嘗膳テクヒソツクシテソコテ

食後飲マテアト 飯モ膳モクヒツクサズニフイテ君命之ヲ俛ツテシム

然後食 食スルトハ上ノ先飯ノ飯ノコリト嘗膳ノ膳ノコリトトナシテ食シム

食共祭食 蓋シ君食共祭食トイフハナラン然ハ上ノ食字ノ上ニ又

々君字ヲツケテミルハ注意ハ君祭先飯トハ君食共祭食シタルハ臣先飯ノトイフコトナリ

右士大夫侍飲食于君

右先生異爵者見于士

臣不敢辭 此レ上ノ君無為與トイツシヨ
ニ君ニ辭スル口上ナリ

大夫則辭 上ニ君若降送之則不敢顧辭
トフルハ士ハ卑キニ礼ノ崇

ナルニ當ラハルニ大夫ハ辭ヲヨキニ辭ス
君ノ階ヲ降ルヲ辭シアヒサツスルナリ

退下 君ノ前ヲ退クニ言フトルナリ

比及門三辭 比ハコロヲヒニテトヨムニ
言ハ門ニ及ブ比ヲヒニテ

都合ニ度ノアイサツヲシテ君ニ辭スル
ナリ

請見之 請ハ先生異爵者ヨリ士タルモ
ソニ御目ニカミリタイトイフテ請フ

國辭其自降而東 降ハ卑下スルノ
之辭

不稱寡 此ノ鄭本ハ句讀モ注モ解スベ
カラズ姑ク義ニシタカヒ不稱

寡ノ夫ヲ句トシホノ一字ヲ句トシテヨムハ
士ハ君ノ直參ニテ大夫ノ次トナリ使スル士ニ

士則曰寡君之老 士ハ大夫ノ次トナリ使
セシ士ニ其ノ士ヨリム

コラエノ口上ニ此ノ大夫ノヲ寡君之老
トイフ之寡君之老ハ決シテ士ノコトアラズ

謂擯贊者辭也 擯贊者ハ聘使ノ時
ノトリツギモノ

此ノ鄭注ハ以上ヲ取ルベシ以下ハ憤ニト
イフベシ從フヘカラス

國 卿士 此レ本文ノ大夫士ノ士ヲ卿士ノ士トス
イマカ必シモ信ジカタシ

未有祿者 マカフキニヒヲモロフテ
ヲラヌモノナリ

右執幣玉之儀

載師之職以田宅任近郊之地

右自稱于君

唯舒武 武ハアトニアシヨイフニ舒ハ
ユルキニ言ハシラシツカアニス

奉前踵 前ハアシノ前ニアシノニビノ方ニ
踵ハアシノアトノホフナリ

備躡蹠也 躡蹠ハツツクフニ
也

曰刺草之臣 刺草ハ草サカリトイフ
クライノキミノ字ナリ

今宅為託 今ハ今ノ宅ノレリ

右自稱于他邦之辭

郷飲酒礼第四

謀賓ハ 優劣ヲ考工正賓トナトテ定メテ正賓一人ヲ上工貢シ御用ニ

タテルニハヤ衆賓モ又タヲヒクアトヨリ貢セシムルニ謀ハハ主就テ相談スルヲイフニ

賓ハ所チシヤノ賓之至起ストヲナシヒキヲコシ上工用ユ

ル之賓興ハ賓トシテハハコナリ

以正月之吉 吉ハ朔日ナリ

獻賢能之書於王 書ハ賢能ニ選ビ賓興シタル事ヲ記録シタルカギツケノ書之ツノ書ヲ獻ジテ此ノ變ハ賓興セシ子細ヲシラシムルニ

士名曰少師 大夫ノ致仕老於郷里ハ父師ト名ク士ノ致仕老於郷里モノ

ハ少師ト名ケルナリ

之亦將獻之 之ノ字ハ賓ハ衆賓ト飲酒ノヲサシテイフニ

ホノ字ハ上ノ周礼ヲ引キタルトコロニ對シテ下シタル亦字ナリ 獻ハ士ヲ貢スルニ

今郡國 郡ハ漢ナリ 郡國ハ一郡一國ト云ト同シ 國郡ト云モ同シ

以黨正之 黨正ハワリジヨフヤノ類ニ以ノ字ワカリカタシ蓋シ以テカンガエテミルニトイフハヨクフクミナル以ノ字トナシヨムベシ

邦索鬼神 邦ハヤハリ國ノ字ノキミテ國中ニイテトイフクラヒノ字義ナラシ索ハモトムルニ五穀ノ類ヲ萬物合セアツメテ蜡ノ祭ヲスルニ

帥其吏與其衆寡

今郡國 郡ハ天子ノ郡縣之國ハ諸侯ノ國ヲ云フナリ

以礼屬民 屬ハアツメル之聚トシマシ義ナリ

飲酒其序 序ハ座ノ序ノ序ノ序ノ序ナリ

正齒位 齒ハ年數ナリ位ハ上座末座ノ坐位ニ

必於民聚之時 即チ以礼屬民ノ時ナリ以礼屬民ハ是レ民聚ル之

主人退 退ハクハ門外テノ之成賓ハ門内ニ入ラス

席賓主人介 席ヲシクハ有司カシクナリ

牖前 牖ハトノ正牖ト戸トノ向ナリ堂ノミニナカニ堂ノ中ニ南面ノ位ニ

不相續也 一人一席ニ一席ニ二人ハ坐セテ故ニ不相續ナリ

斯禁 尊ヲスケルイナリ

有玄酒在 上ノ西壺尊ノニツノウキテ西ニラヒテアル一壺カ玄酒尊ニ

東肆 西ノ上トシテ西ヨリ東エムケテヲクヲノトイフナリ

切地 地ニキカニツイテヲルイフナリ

右設 南北以堂深 洗ヲ庭ヲキテ堂ヲ相克ル其ノハハ堂ノヲクキト同ジキ

皆從之 皆ハ賓ヨリ衆賓ニ至ルニ皆ナニ從之トハ之ハ主人速賓ノ主人ナリ

主人加速ニ未テカエル共ノアトカラ賓タルモノニ相ヒツラフテ主人ノアトエラヒ從フテ往

右速 主人カエリカシアイタツツクニクニ之然ルニ主人カエリカシアイタツツクニクニ之主人ニ同道シテ從フニアラザルナリ

迎于门外 門ハ学校ノ門ノ学校ハ一門ガリ
之下アル門ハ三ナ此ノ門ノナリ

再拜身 此レ主人之蓋シ主人ノ相カ門外ニ迎テ
又タ入テ吉ケソレヨリ主人出テ

皆西南面 主人カ拜介トキ皆ノ西南
面ニ拜揖スルヲト衆賓ハ東北面ニ

推手 推手ハハヒイテ身ニツケルカ
引手ハヒイテ身ニツケルカ

将進揖 門ニ入ルトキライフナリ

當陳揖 陳ハ堂塗ノ門ノ階ニ接ス
ル道スルヲ就陳ノ時揖スルニ

當禘揖 碑ハ庭ノニシナカニアルナリ

楣前梁也 堂ノ上ニアル前ノウツハリニ後
ノウツハリハ室ノ上ニアルナリ

疑然從趙盾

主人少退 主人カ賓ノ席前ニテ爵ヲ持キ
ナカラニ少退ニ少退ハ賓カ西階ニ

賓少退 此レ賓カ西階ノ位ヲ爵ヲ持キ
カラ少退テ主人ノ階上ニ升ルニ答ルニ

賓升席 戶牖間ノ南面ノ席ニ升ハ
升ツテ立ツテヲルナリ

杖解席折 艾解ハワケニ解ヒタルニ
昔カハカラワケタルニ

賓坐 席上ニテ始テ坐スルナリ

右手取肺 組ノ肺ヲトリ祭リ且
ツ齋フナリ

弗繚 子チキルナリ

離肺上為本下為末齋也
也。義疏鄭注ニ右ノ十餘字
ヲ増ス

右迎賓 既ニ堂工ノボラマシキニ揖シテ
又堂工ノボラマシキニ揖スルニ

奠爵于篚下 爵ヲ奠テ先ツ手ヲ盥
盥ニ篚下ハ篚ハ北上ニ正南ヲ下

盥洗 盥ハ手ヲアラフニ洗ハ爵ヲアラフ
然ルニハ將洗ニテ未洗ナリ下ノ

辭洗及ヒ卒洗ノ字ニテ知ルベシ

奠爵于篚 爵ヲ篚ノ中ニイレルナリ

俱升 俱ハ主人ト賓トトモニナリ

為手垢汗 垢汗ハヨコレタルノ教氏白
拜時以右掌據地不無垢汗也

尚左手 尚ハウエニスルニ
フウエニスナリ

肺雜之 雜ハ割之肺ハ
一片ニハナシテアルナリ

垂衿之 衿ニテモトラストハ言
ハ左下ノ肺ヲフリサゲテ右

告旨 酒カ旨シト主人エアイサツスルニ

明此席非專為飲食起 此レ此席非專為飲食起
モシ飲食ヲ主トシテ席ナレハ

席上ニテ酒ヲ飲ミ盡スベシ酒ヲ盡スニ席
ヲ改リ来ル是レ此レ席ハ飲食ヲ主トスニ非ズ

辭洗 南面ニテ
テ絶句下ノ

主人少退 主人カ賓ノ席前ニテ爵ヲ持キ
ナカラニ少退ニ少退ハ賓カ西階ニ

賓少退 此レ賓カ西階ノ位ヲ爵ヲ持キ
カラ少退テ主人ノ階上ニ升ルニ答ルニ

賓升席 戶牖間ノ南面ノ席ニ升ハ
升ツテ立ツテヲルナリ

杖解席折 艾解ハワケニ解ヒタルニ
昔カハカラワケタルニ

賓坐 席上ニテ始テ坐スルナリ

鄭曰序端東序頭也
右ハ義疏ノ正義トス
和幸鄭注及唐注
疏三ナ与此不同ナリ

辨洗ヲ二字トス南面ハ主人階ヲ降リ
シ時ノ位ナリ辨洗ハ南面ノ位カラ又々
少シ進シテ出ル之然ラヤルトキハ下ノ主人復作
階東ノ向ワカラス但シ此ハ南面之下ハ西面之

薦脯醢 薦ハ有司ノ主人ノ席前正
スルノ位ナリ

自席前 前ハ序ノ西ニシテ主人ノ席
西面之席ニ升降ハ北方ヨリスル

再拜出崇酒 鄭注ハ崇酒ハワルキ酒
トイフ義之其ノワルキ崇
酒ヲ飲シテクダサツタヲ再拜シテ謝スル
ナリ

答拜 凡ソ答拜トハカリアレハ一拜
再拜ノ節ハ先ツ拜スルノ拜ト

復位 位ハ西階上之上ニ介進北面爵ト
アルハ席前ニ進ミ爵ヲ受ケテ又
夕西階上ニカエルナリ

主人介右北面云々
介右トハ右ハ西階上
ニシテレハ其ノ西階
上ノ東ニアルナリ西階上ノ東ニ北面ス
是レハ右ナリ

降尊以就尊也
降尊トハ尊キモ
ノカヘリクダリテ

卑下ニ就クナリ階階ノ上ニテ拜スレハ
尊位ヲ以テ自ニ
自ラ卑下ニテ階階上ヲハナレハ右ニ
来リ拜スルトナリ然ルニ此ノ注ニヒト
イキナリノ義疏此ノ注ヲ存疑トセリ
案惟獻賓拜於階餘皆拜其右降

ハ序端ナリ

國崇克也言酒惡相克實 酒ノワル
イトコロ

主人 右主人ノ位ナリ
口之要スルニ酒カワルイトイフキミナリ

立當西序 西ハ賓カ庭上ニツテアル
ナリ

以其尚自飲 自ノ字ハ主人ノ
主人カ自ラ飲ムヲ云フ

坐祭遂飲 坐ハ主人ナリ主人坐祭
遂飲ナリ賓アラズ

坐奠解于薦東復位 坐ハ席前
復位ノ位ハ西階

右主人ノ位ナリ 賓カ進ニテ席前正北面シテ坐シ
解ヲ奠テ又夕退テ西階上ノ位ニ復スル

尊之說不可通於大夫コノ案ノ旨ニハ
介右ニ拜スルハ定マリアル例ニテ必シモ
介右ニシテハリクダルノ謂ニ非ニ介
ルナリ

主人立于西階東 西階東トハ即チ上ノ
介右トイフ位ナリ

薦脯醢 薦ハ有司カスルノ
位ナリ

介右答拜 此ノ介右モ上ト同シク西階
東ノ位ナリ

國當為介酌 為介酌トハ介カ酌ムベキヲ主
人カワツテ酌シテヤルヲイフ
此ノ段ハ介ヨリ主人ニ酢スルナレハ介ハ賓ヨリ
カキキ酒ヲ介ラ酌ムヲナラズ故ニ主人カワ
ツテ酌ムナリ
酌スルハカカガリテ主カ自ラ酌シ自ラ酌スル

右主人自酌于介

授主人爵于兩楹之間 爵ハハカ庭ニテ 洗フテ来リシメタ

酒ヲクハサルカラノ爵ヲリ 主人エワタシ酌

シタル之兩楹之間ハ堂上ノ中ナラシ

酌于西階上 西階上ノ爵ノ禮ヲ礼

ハ降立子賓 賓ニシテ皆西ニ立テ 當序東西セリヤ其南

三揖衆賓 衆賓ニ向ヒイツシヨ三揖スル之

也ケヨフメレハ大ニ解シヤスシ然ルニ三揖壹揖

ヲ手扱トシ伯礼上ノニツニムリニ別々ツシ

ヲヨキニタリニ三揖示偏モ即チステニ是

レ不備礼ノ謂ナルニニタリ 示偏トハ

衆賓加長三人之其ノ三人ニ揖スルニ

イウシヨ三揖スレ一人ニ一揖ニタル是レ

儀ク揖スルニタレル之故ニ示偏トイ

實爵于西階上 是レ上ノ實爵ノ

ハ別ニナリ下句ニ接シ讀ムベシ義

既ハ正シアリ

衆賓多矣 此ノ衆賓ハ三人ノ外ノ

庭ニコリヨル衆賓之

不拜受爵云々 此レ三人以下ノ衆賓之

ハナケレ受爵テ酒ヲ飲ムトキハ一人ツ

西階上ニ升リ来ルナリ 飲ミヲワリ

皆左何瑟後首 皆ハ瑟ノ相者二人之

左ハ左肩之何ハ荷之

後首ハ瑟ノ上ノ方ヲウシロエムケル之瑟ノ

上ノ方トハ彈スル方ヲ上トスル之義既ニ衆

可鼓之處即首也云々トアリシモ即

千是レナリ

右主人獻衆賓

堂下ノ位ニ降リカエル之義既云亦言坐祭

立飲則ハ授主人爵而降復位悉与三賓同

薦諸其席 三人ニ酒ヲ獻スルゴトニ三人ノ席ニ

有司カ脯醢ヲ薦ムルナリ

衆賓辯云々 辯ハアノテクト訓ズルハ

國位在下 下ハ堂下ノ下之

舉解于賓 舉解トハ尊ヲ治ノルトイ

フクライノ意之舉ノ字ヲ賓

實解 西階上 此レ亦上ノ二字絶句之義我

既ニ從フシ西階上下ニ接スルシ

相者二人 此ノ相者ハ瑟エノ相者二人ノ歌

エノ相者ハ又夕別ニ二人アリ

四人大夫制也 四人ノエテ樂ヲナスルハ大

夫ノ制ナリ 諸侯ノ樂ハ

六人ノ天子ハ八人ヲ用ユル之然ルニ義既ノ存

疑ニ賈魯士當ニ人トアリ 樂ニ歌工必用

二人惟瑟以多寡為隆殺若工一人瑟一人

恐不成樂矣故鄉射礼亦工四人疑士与大夫

同制云々此ノ意ヲモエラク差次ニシタカヒ士ハ

二人ノ樂ヲ用ユレハ二人ニテハ樂ヲ成サズ故ニ

四人ヨリ以下ハナシト見ノ士モ大夫ト同制

右一人舉解

國將入序在前也
入ハ門工入ル之旨也
門ヲ入ル時ノ次序カ歌

工二人ヨリハ瑟工二人加前ニ入ル之堂上ノ位ハ
歌工ヲ上トシ瑟者ハ下坐シ

國每工一人
工ハ四人五ニ相モ四人之曹也
二人瑟相之則之歌相亦二人

國使視矇者
視ハ矇字、ヨリ矇矇者
ハ別、目ノヨクミエル人ノナルカ

國凡工瞽矇也
陳氏陽曰以其精於聽也

國後首者變于君也
君ノ前ニテハ蓋シ瑟ノ
首ヲ後ニセサルナルハシ

國後相也
瑟ノ相者ハ瑟ヲ肩ニ荷ヒテシ
歌ノ相者瑟ヲハノモノ類ハ

ナシタニ歌者ヲヌスケテヤルハカリ之
是レ凌ニ相クル也

口工左瑟
義疏ノ此注ニ左瑟
便其右且辟主人
授簡也ノ十二字ヲ増シアリ
和本ノ鄭注ニコレナシ

フナリ然ルニ大師ハ来ルルモアリ来ラヌ
フモアル也

工不辯洗
不辯ハ蓋シ不敬當ナリ

國大夫若君賜之樂謂之大師
言ハハ大夫ノトコ
口至妻カラ樂ヲ

賜ハリシトキ君ノ方ヨリ来リシ樂工人ヲ
大師トイフト之然ルニ必シモ然ラズ此注アシミ

國瑟則先云
先トハ瑟工正爵ヲ先カ獻ス
ルヲイフ之然ル此ノ注アシミ

笙入
入ノ字テ絶句ナリ入トハ門ヲ入
ルナリ

國共有此篇明矣
此篇トハ南陔白華
黍ノ三ツヲイフ也

國至孔子二百年之間五篇而已
正考父ヨリ
孔子ノ時ニ

國內弦
イトノアルホウヲ内工ムナ
荷フタルナリ

國側擔之者
側擔トハツバダテノ荷フ
ベタリ荷ハズヨクニタテ荷

樂正先升
樂正一人之此ハ工四人ノ外之
四工人ヨリハ位モ卑シ堂上ノ

位モ四工人ノ一
テイ千ハシ西ニ位スル之義疏
ノ鄭注樂正天子樂師也樂堂其序樂則皆備十九宮カ

國工之長也
四工人ノウチ歌者ノ一人イツチ
上坐ニラルモノナリ

使人相祭
人ハ即チ相者ノ一也

辯有脯醢不祭
不祭トハ脯醢ハ祭
ラサルナリ

大師則云
大師カ四工人ノ内工アツカ
リ来リ歌フ時ハ爵ヲ洗

至ルニテ二百年之孔子ノ時頌ハステニ
五篇而已ニナリタルナリ

國此其信也
此レ其ノシヨウコ也ト
イフコトナリ

一人捧
一人ハ注ノ凡四人トイフ四人ノ内
一人之マハリ吹笙者ナリ

升授主人爵
教氏曰亦畫階不升堂

國和一人
賈疏爾雅笙小者謂之和

不祭
脯醢ヲ祭ラサルナリ

國薦之
薦ハ脯醢ヲ薦ルノ一也

國為邦家之基云
鄉大夫ノ一也

既欲其身之壽考云々 其字ハ卿大夫ヲ
サス下句ノ其字同

謂歌樂与衆樂 歌樂ハ堂上ノ樂之衆樂
ハ堂下ノ磬々笙ノ類也

鄉樂者風也 鄉飲酒ノ用元樂ハ
國風ノ詩ヲアタリマエトス

歌十雅 アタリマエハ凡ハ歌アベキ一段
上エボセテ小雅ヲ歌フトイフ心

可以進取也 賈疏小雅云饗或進取燕
可以速下云々

燕令鄉樂 燕トハ諸侯ノ燕
禮ナルベシ

肆夏繁遏渠 左氏傳ニ襄公
二十三年

合小雅 合トハ大雅ヲ歌フテ小雅
アハセ用ヒテ歌フヲイフナリ

天子典次國小國之君亦如之 次國ハ
對シイフ次國之亦如之トハ亦々上ノ升

歌大雅合小雅ノ如クスルナリ

其笙間之篇未聞 此ノ鄉樂ハ笙
間之篇ハ魚麗

由庚ノ類ナレバ諸侯ヤ天子ノ樂ニ用ユ
ル笙ト間歌スル詩ハ何トイフ篇ヲ
用ユルカ未カ聞カズト云

右樂

乃降 降トハ樂正ガ一人ハカリ
堂上ヨリ降ルナリ

側降 賈疏側者特也賓介不後故
言側

作相為司正 賈氏曰上一相迎於門外
今將燕使為司正

請安于賓 安ハ安燕ノ安ナリ

相揖 鄉射禮ノ注云相調贊主人及
賓相揖之辭

已帥而正 右ノレキイテタビストヨミ可
ナレ似タリ然レ本訓而為以

右還北面 右還ノ字ハ燕禮見合シ
委シクワカルベキナリ

奠于其所 其所ハ階間ナリ即千
上ノ階間北面坐奠解ノ延云

凡旅酬者云々 賈疏云並是鄉飲酒
義文ヲ注ス此延切云云

以齒 年齒ノ少長順ヒ旅酬ノ礼ヲ行フトイフ
之然レ此ノ延ノ旅酬ハ賓ヨリ主人

正酬主人ヨリカエ酬シ介ヨリ衆賓正酬
シ尊卑ノ次第ニテ酬礼ヲ行ヒ年齒ヲ
以テ酬ヲ次第スルトハ見エザル云

終於沃盥者 終ノ字ハ至ノ字ノ意味云
沃盥者ノ類ニイタルニテ

皆弟長而無遺矣 弟長ハ少長ノ如シ
言ハ沃盥者ニイタ
ルニテ皆ナ少長ノ次序ヲ以テ礼ヲ行ヒ旅
酬フニテ遺スナキナリ

旅酬同階 賓拜送于主人之西ト云主人之
西ハ階上ノ西之是レ同也

右立司正

上ノ獻酬ノトキハ主人ハ東階ニ捧シ賓ハ西階ニ捧スルナリ

相旅 相ハタスクル之旅ハ衆之衆賓長ノ三人ヲサス之賈疏

及介旅酬不監以其習礼也

其子受酬 此ノ四字ハ司正ノ辭ナリ 其子ハ衆賓長三人ノ

受酬者降席 衆賓長三人カ一人ツマカワリカワリ降席ツテ酬ヲ受ル

旅序也 賈疏旅衆也而言序者謂衆以次序相酬

衆賓 姓也 衆賓ハ衆賓長三也賈疏 某在子ノ上故知是姓若單言

某則之字

饋上饋下 上ハ堂上ノ衆賓ニハ酬ヲ受者ナリ下ハ堂

下衆賓ノ酬ヲ受ルモノ之饋トハ相捧ノ類ノ受酬ル時ノ捧辭ナリタスルコトナリ

始升相 相ハ司正之司正ノ始テ升ハ西階西北面ス上ノ相旅曰云ノ

時ナリツレヨ 退立テ序端ナリ

衆受酬者 衆ハ堂下ノ衆賓ナリ長三人ノ外ナリ

衆トハ衆賓長ノ第二人ヨリ并セテ堂下ノ衆賓ニテ升イフ之上ノ受酬者自外

右トハ衆賓長三人ノ第一人ヒトリナリ 第二ヨリ此ノ衆受酬者ノウチニアルリ 賈氏曰衆賓之内為首者一人自外右受之 自第二已下并堂下衆賓皆自左受之

國 變然介也 義疏 字ノ下ニ受字ヲ加フ 言ハ衆賓長三人ノウチ第一人

ヒトリハ介 右ニテ酬ヲ受ク第二人ヨリ並ニ堂下ノ衆賓モシテ酬ヲ受ク是レ 第一人カ介ノ右ニ受ケシトハ變スル之

國 辯衆賓之在下者 辯ハ周也ア子ウスル

于西階上 數氏于西階上于字衍

國 若有大夫 大夫トハ下ニ所云ノ尊者ノ 尊者ハ或ハ来リ或ハ不来

賓ハ奠于其所 其所ハ東トノ所ナリ賓ハ 薦西ニ奠キヤハ薦南ナリ

賓辭以俎 俎ハ尊者之貴者ノ貴者カゴサリ 一スニエトフモ礼ヲ殺ギ燕坐イ

タシニクウコナルトイフ口ナリ 燕坐ハス テニ礼ノ畧ナルモノナレバナリ

國 盛礼俱成 俱トハ獻酢酬ノ諸礼ヲサシテ俱トイフナリ

國 酒清者乾賓主皆捧 酒モスミ着モカ ワキ賓モ主モ

百タヒモ捧スルホドテヨホド久シヒアイダ ノコヲイフナリ

國 將以賓燕也 燕ハ燕飲スルヲイフ之

國 不敢以礼殺當貴者 礼殺ハ燕飲ヲサス 燕飲ハ礼ノ略ナルモ

ノナレハ之貴者ハ俎ナリ言ハハ俎ハア ラクニツタモノエ如カアツテハ燕飲シクイト之

俎 俎ハ命シテ 俎ヲ殺スルヲ俎セテヲ イテ殺スルニ及テ殺セサス

國 燕 曰 媿 爵者云々

右二人舉解

右旅酬

言正賓ノ姐ヲ徵シテシテ正侯セラヤ
テ主人ヤヤ等ノ姐ヲ徵スル時ニ弟子ヲシテ
徵セシメントスル之下ニ見エタリ故ニ此ノ
侯徵姐ノ姐ハ正賓ノ姐ナルベシ

明徵姐賓之義
言正賓ハ主人モヤモシ
カクモ姐ヲ徵スレハ

賓ノ姐ヲ徵カガフモノ義トナリ
正賓ノ一姐ヲ徵テハ弟子ヲ俟セアル之

立于席端
義既ニ席ノ字ヲ序ニ作ル
トナリ立于西席端之

用時事耳
尊者ハ或来リ或来ズ
故ニ尊者カ不來レハ不

來時ノ事モ来ラハ来リシ時ノ事ヲ
用ニシトイフコトナリ

賓取姐還授司正
還ハ之レ之取姐ハ自身ハ
席ニ面シテ取ルナリ

ソノ時ニ司正ハ此ノ方カ後ニユツテヲ
故ニ席ニ向ヒ姐ヲトリ還クツテ後ヲ
ムヒテ司正ニサツクル之下ノ主人ヤヤ等ノ
還ノ字ニ同意トシルベシ賈氏曰郷
席取姐還轉授之故經皆言還

還授弟子
命弟子トアル
イテ此ニイタリ又命シテ

主人
下ノ姐ヲ徵セサズ正賓
一人ハカリハ司正カ徵セシナリ

若有諸公大夫
導者ノ類ナリ
ヤハリ上ニアリシ

使人受姐
人ノ姐ヲ徵セサズ
ト同ジキニ但賓ハ司正ヲシ

テ姐ヲ受ケシレハヤハリ弟子ノ教氏云
人亦謂弟子ケテ大夫デモ賓ヨリカルキニ

河徽組
右說屨升坐

故主人ヤヤト同様弟子カ姐ヲ受ク賓ハ一人
ヲモシク別ニ司正カ姐ヲ受ケル之然ルニ人
ニ姐ヲ受ケル者ハ徵セサルハ大夫モ

正賓ト同キ之故ニ下ニ如賓禮トイフ
衆賓皆降
衆賓長三人モ皆降
之皆字ハ三人皆ハ降降堂之

取姐者皆鄉其席
皆ノ字ハ賓主
人カ三人ヲサス

皆ノ字賓主人介ノ三人ヲサス
ナリ降ハ堂下ニ降ル之

狗載醢也
載ハ肉ノキイサクキツテアルヲ
イフ之此レイヌノヒビシヨナリ

鄉設骨體
郷ハサキニサキニ姐ヲ設ケ
シヨイフ之姐ハ骨ニ載ル之

今進羞
羞トハキイサクキリ料理シテ之
ルヲシテ出スヲ謂フ之狗載醢ナリ

右無
皆是
是字ハ無算爵ヲ指スナリ
言ハ郷射礼ニ云ル所ニ無算爵ト云

賓出奏
賓ノ出ル時ニ奏後トイフ之
賓出ノ後ニ奏スルハアラザル之

該該夏也
該夏トハ金ヲ奏スル樂ニ
テ九夏ノうちノ一夏ニ

奏九夏
金奏ノ樂カ九ツアリ九ツ
ニ三ナ夏ノ字ツク故ニ九夏トイフ之

大夫士鼓而已
鍾ハナラヌトイフナリ
然ル此注アシ

蓋建於阼階之西南鼓
建ハ樂器ヲ
懸ケル之

鍾磬之其ノウチ鼓ハ鍾磬ノ南ニ
ツク之故南鼓トイフナリ

禮有終也
言ハ禮ノ終ヨリ其外ノ諸礼ニ
ナ相ヒスミヲツテアルト云

右賓
出

賓若有尊者諸公大夫 尊者トハ即千諸公

ヤ大夫ヤノ一言ハ諸公ヤ大夫ヤノ尊者アル時トイフコトナリ

國尊者諸公大夫也 尊者トハ諸公ヤ大夫トイフコトナリ

國六國有孤 孤ハ孤卿ノ大國ニハ一人ノ孤卿ナルモノアルコトナリ

國四命謂之公 四命ノ公トイフハ即千大國ノ孤トナリ

此ノ孤カインキヨシテラルモノ多カルベシ是レ皆ナ公之諸公トハ此インキヨシテラル諸人ノ公ヲサスナリ

公三重 席ヲ三ニヒカサズルナリ

國三命者不齒 天子ノ士ハ三命上ハ不齒トナリ

國不言尊者 尊者ノ席ハ再重トイフコトナリ

國尊者尔卿大夫 孤卿モ大夫モ三命尊者ナレバ

所謂三重再重ノ公ヤ大夫是レ即千尊者也

公如大夫入 即千尊者ナリ

辭一席 三重ノ席ノ上ノイ千ニヒラ辭シ去ラシム

使一人去之 主人ヨリ一人ヲ出シ其ノ辭スル

トコロノ一席ヲ去ラシムルコトナリ

有諸公則辭加席 諸公ハ公升ノ公之辭ハ大夫カ辭ス

委于席 主人不徹 委ハキヨク之不徹トハ大夫

加加席ヲ辭シヒテラクマハリ其ノヒタマニ席端ヲカシ其レヲワキユ徹シ扱ハルコトナリ

國上席也 再重ノウエノ席也

國遂從之 賓ノ家ニ往ク之賓カ先屈辱シテ来リシ答スルコトナリ

國揖辱于门外乃退 門外ハ賓ノ門外トイフコトナリ

モミナ賓主ハ相見ズシテ門外テ揖シテイコトイテカスルコトナリ

國羞同也 羞ハ脯醢ノ同トハ昨日ノ正礼ニ脯醢アリ今日ノ勞礼モ同ク脯

醢アルト之但シ組ノ類ハ昨日ノ正礼ニハアレバ今日ノ勞礼ニハ組ナキナリ

國在有何物 羞ニ用ユルサカナハ何物デモ有ルニカセアリ

コトナリ

徵唯所欲 ヨヒタヒ人ヲヨビヨビトモナヒ人ヲヨハサルナリ

以告于先生君子 告ハ今日息司正テ酒ヲ飲ムノコトナリ

シラス之先生君子ハ昨日ノ正礼ニ来ラザリシ又タ別ノ先生君子ナラン

國不以筋力為礼 竹筋カラ勞シ骨ヲ折ル礼ヲセサルコトナリ

昨日ノヨフナ正礼ハ賓主百揖是レ筋カラ以テ礼ヲナス之故ト昨日ノ正礼也

右尊者之禮

右揖賜揖辱

ハ先生ハアツカラサル之故ニ今日ノ
ヨフナ樂礼ノ畧セシ處ニ請ヒマ子ク之

國 於是可以来 昨日ノ正礼ハ筋カラ勞
スルニ丑先生ハアツカラ

不今日ハ礼ノ畧ニテ筋カラ勞スル
ヨナナシ故ニ先生モ来ル可キ

賓介不典 賓介ハ昨日ノ賓介
不典ハ今日ノ勞礼ニ六

アツカリ来ラサル之

國 六篇之中 尚南召南ノ詩ハ六篇
ノミニアラス此ノ六篇ト

イフハ此篇中ニ合樂セシ閑雅ヨリ采蘋
ニイタルニテノ六篇ヲサシテイフ之

國 唯所欲 經文ノ唯欲トハト注スツ
モリ之所ノ字ハイラザルアリ

國 作不從次也 作ハ樂ニ表シ
ヲコス之不從次

トハ次ハ次第ナリ言ハ閑雅ヨリ采
蘋ニイタルノ六篇ノ詩ヲ歌ヒ出スニ

六篇中ノドノ詩ヲ一ハニニ歌ヒドノ
詩ヲニハニトイフヨフニ次第ヲシテ

ウタハツドノ詩カラテモカツテウタ
ヒ出シテ一ニノ順ナシニテ六篇ヲ歌フ之

國 不歌鹿鳴魚麗者 鹿鳴魚麗ハ三
ノ樂之此ニ歌フハ鄉樂ナレバ國風ニ

皆使能 皆ハ主人賓介皆之能トハ
礼ヲ能シツテヲルヲイフナリ

言ハ擴マ贊者ノ類ハ能ク礼ヲシツ
テヲルモノヲ使フナリ

國 祭半臑

國 左胸右末

右記賓介
右記尊冢

不宿戒 宿戒ハ再戒ル下之擴マ贊者
ノ屬ハ能クエラミ使フエニ

前日ヨリ礼儀ノ習ハセ宿戒スルニ及
ハザル之此ノ不宿戒ハ擴マ贊者ノ下ニ

國 典礼異 礼式トハ千コトイフヲヒ
之礼ノマテ玄冠ニ皮弁服ノ服也

國 狗取擇人 狗ノ人ヲ擇 フトイフ
考フヘカラザル之

亨于堂東北 亨ハ烹之堂東北ハ
東壁ノクノクイフ之

國 祖陽氣之所始也 所始トハ堂ノ東ヲ
サスルベシ祖ハ本

クトイフキミナルベシ

横祭于其上 肺五挺ヲ邊ニイレタ祭
ノ肉ヲ半臑ノ五挺ノ肺ノ

上五横ニノセテ出スナリ

肺 右記 挺猶臑也

皆右體 前脛モ後脛モミナ右ノ
方ヲ用ヒ左體ヲ用ヒザル之

國 前脛膏三 前脛ハ狗ノ一エアシニ
三ハ肩臂臑ノ三ナリ

賈氏曰凡鮮體皆連肉骨為本故以
骨名肉云云

國 臑也 臑ハ手ノヒジノフシヨリサキ
ヲイフナリ

國 膊胛也 後脛ノ上ノ半ニテ膊ト
イハ下半ニテアノ足ノ

ニヒノ延マテヲ胛ト云フナルベシ

右記牲
右記爵解之用

右記祖所與其實

國 雜猶挫也 挫ハハナルノ義之

國 謂前共本也 肉ノ本ノホウヲ人ノ前エムケテ進

ル之本ト肉ノスジノ上ノホウヲイフナリ

坐卒爵者 揖既爵 坐シテ爵ヲノミツクス

モノハ揖シテ爵ヲノミツクスニシツテ飲ミ揖セハシモノトハ異ナルナリ

叔氏曰此蓋於卒爵之時見其揖不揖之意坐近於揖故當揖則坐飲不當揖則坐飲也是二儀經已具之記蓋言其例耳

凡奠者於左 奠ハ奠シテ舉ハルモノヲサス左ハムカフ人ノ左ニ

國 不飲者不欲其妨 奠シテヒテノハハルモノ

ユエニムカフノジヤニナラヌヨフニムコフノ左ノホウエ奠シクタイフス

將舉於右 將飲ノ爵ヲ奠ニハムカフ人ノ右エヲ

クナリトリアゲノムニ便ナルハ

國 賢者衆寡無常也 賢者ハノ之衆寡ノ賢者ハ多サハ定リナシ故ニ無常トイフナリ

國 或統於堂或統於門 堂ニ統ハ堂ノ

ホフヲ上位トスル之此レ賓ノスクナキトキ之門ニ統ハ門ニヨツテ位ヲ別ニ

右記衆賓立位

列スル心之此レ賓ノ多キトキ之是レニナ賢者ノ衆寡ニヨツテ異ナル之門ニ統ル位ハ北面東上也ニ夕堂ニ統ル位ハ東面北上ナリ 賈氏曰

堂下立者若少則東面北上統於堂若多東面立不盡則門西北面東上統於門 夫節

樂正与立者皆薦以齒 立者ハ衆賓ナリ衆賓ト

樂正ハ酒ヲ飲マズ年齒ノ長セシホフヲ先トスル之蓋シ樂正ハ郷人ノ衆賓ト齒サセテウチニセシテ酒ヲ飲マズナリソフシテ年ノ長テ飲ノ先後ヲスス

凡舉爵三作 三作ハ上籩ニアル三ツノ爵ヲ一爵ハ賓存

衆賓ニ舉ゲ一爵ハ大夫ノ類ニ舉ゲ又一ツノ爵ハ工及ヒ筮者ニ舉グル之

國 皆有薦 脯醢アル之是レ經文ノ不徒爵ノノ之

樂作不入 樂ノ作ルトキハモハヤクソクテニアハスナリ

國 後樂賢者 御飲酒礼ノ賢者ヲ樂ムノ義ニヨククル之

國 亦然 亦々爵ヲ上籩ニ取リ獻ジテ既ニ獻ジハリ下籩ニヲメル之

國 上籩三爵 堂上ノ籩ニハ爵ガ三ツイレテアルナリ

國 於工揖于階上者以共坐于西階東也 揖ハ主人カ工ニ揖スル之其ハ工ヲサスナリ

縮雷 雷ハ堂雷之縮ハ夕テ之雷ノトフリ東西ヲ夕テ

右記樂正薦節

古記ニ

縮雷ノトフリ東西ヲ夕テ

磬鐘ノ諸樂器ヲカケル

國 宿從也 後ハ從横ノ從ニテ

國 大夫而特縣 樂器ハ磬鐘ノ類

ケルカアタリニエ之此ニ兩縣セズシテ

持縣ニテ一方バカリニ磬鐘ヲ縣ケ

ルハ是レ士ノ禮ニテ大夫ノ禮ニアラハレ

氏郷飲酒ニ士ニ禮ニ從フナリ

右記司正薦節

司正既舉解 司正加解ヲ舉ゲテ

薦諸其位 其ハ司正ヲサスナリ

薦六肺醢ヲ薦ルナリ

國 統於堂也 堂下ノ位ナレハ堂

北上ニシテヲルナリ 堂北ニアル

國 謂不獻酒 不獻酒ハ扶贊者ニ

國 燕乃及之 扶贊者ハ正礼ノ酒モ

テ正礼ヲハリ燕飲ニナツテ乃チ

アツカリ及ビ酒モリスルナリ

右記主人扶贊者

不洗者不祭 不洗ハ甘カシヲ洗

祭ラサルナリ

既旅士不入 旅氏曰此士亦主人請

之為衆賓或有故而

右記不及與賓介同來者也云既若終

節言之也

受者以降 受者ハ弟子之經文

見エタリ

國 其西面者北上統於公 公ノ席ハ

南面之經文ニ見エ其ノ南面ノ席

ニ統屬シテ左ノ方ニ西面北

右記堂上ノ席ヲスルニ

者席位

鄉射禮第五

國鄉大夫若在焉則稱鄉大夫也賈疏列長

戒賓不自稱稱鄉大夫以戒トアリ蓋
一鄉五列アリ其ノ五列ノ内ニ鄉大夫ノ宅
居スル一列ニ射礼ヲスレバ必ズ鄉大夫モ
來臨ス是レ鄉大夫若在焉ナリ其ノ時
ハ列長加主人タリヒヤハリ鄉大夫ノ命
ヲ稱シテ戒賓ナクスルコトナリ賈疏又云
此是列長射法周官大司徒職五列為鄉
是一鄉皆官五列鄉大夫或宅居列内來臨
此礼是為鄉大夫在焉

國鄉老 鄉大夫ノ致仕シテ鄉中ニ老
シタルモノヲ云フカ

國以鄉射之礼五物詢衆庶賈疏鄉大
夫職五物

於此者皆東上惟為神席則西上

國未有所殊別 席ヲ別クニシ尊卑ヲ
殊別スルコトヲセサルナリ

國尚之也 尚ハタツトフ之ノ字ハ玄酒
ヲサス言ハ設尊者カ北面

スレバ其ノ者ノ西カ左リトナル其ノ
左方エ玄酒ノ一尊ヲツキ右エモ一尊ヲ
ツク是レ玄酒ヲ左エツク之尚之也

國辟射位也 射位ニ階間カフサガルコト
ソレヲ辟ケ東方エ縣ルナリ

國但縣聲者 只カ聲ヲ縣ケテ鐘ナキニ
然レ但縣聲トイフテモ鼓
聲ノ類ハヤハリ縣ル之此レハ聲ヲ縣ル
トイフ自ラ鼓聲ノ縣ルハ知ルベキナリ

右戒 賓ナエフレル心ナラン衆庶ニトナエテ衆庶
ヲ感興セシムルナリ

國此射於序 注ハハ序ハ堂ハカリテ室
モ戸牖モナシノツモリ之故
云コト賈疏モ其ノ心ニテ疏セリ然ルニ
鄭賈氏ニミナアシ、教曰不言戶牖者
可知也記云出自東房有東房西房則中
有室而席實於戶牖之間也明矣凡席

國半天子之士無鐘

士有鐘トナリ言ハ此レハ但聲ヲ
縣テ鐘ナシ天子之士ハ聲ト鐘トア
リ是レ天子之士ニ比スレバ半ハ之
右陳 席器

國持舌繩也武迹也 舌ハ上下ニツアリ武
ハ足ノシキナリ

中掩束之 中ハ侯中之侯中ヲ掩ヒ
左ノ下綱ヲ右方ノ上ニテ

レリ中掩束之トイフナリ

正參侯道居侯當黨之一王五步

足ハツヒタテノ如キモノ矢フセギニツレノア
ルトヨハ侯道ヲ參分シテ侯ノ黨ノ
ホフノ一分ニ居ルノ黨ハ傍也ト賈疏アリ
蓋シ侯道ヲ三ツニハリ之ヨリ北カニ
フン之ヨリ南カ侯マデ一フン之西五歩
ハ之ガ侯ヨリ五歩西エヨル之是レ東西
節之注ニ西三丈トアル即チ是レナリ
■三丈ハ五歩ニアタリ五歩ハ三丈ニ
國所以為獲者御矢也 獲者ハ射
ヲ唱者ナリ
矢カアツタト見バアツタリトサ
ケビ唱エテシラスマク之此マク一人
御矢トハ堂上ヨリ射ル矢ノアタラス
ヨフセギニ之ヲコシラヨキ其ノウ
千ニ立ツテヲルナリ

國侯道五十歩 侯ヨリ射者ノ一ニテ
道ガ五十歩ニ至ルナリ

國去侯北十丈 侯ヨリ北五十丈ア
ヒガアル之侯道ハ
五十歩ハ即チ三十丈ニアタルハ
侯道ヲ參分スレバ即チ十丈ニ
故ニ之ヨリ侯マデ十丈之是ヨリ北エ
又々二十丈之是レ侯黨之一也

國西三丈 侯ヨリ三丈西ニアル之
東西ノ節ニ三丈ハ五
右張歩ニアタル之是レ經文ノ西五歩
ナリ

國戒時玄端 玄端ハクロキモノ朝服
モ用ユレトタト玄端トガ

リイニハ朝服ヨリハカルギニ

右速賓

國皮弁服与礼為異 射礼ヲ行フトキハ
朝服スベキハツラ
皮弁ノ服ヲキルユエニ礼トハ千カツ
テアルナリ

揖衆賓 此ノ衆賓ハ三賓及ヒ共ノ
餘ノ衆賓ヲスベイフニ

國進豆難也 ヲキヤクナレバヨツエ往テ案
内ニテ進ムハハニヨアル心

國枝解節折 枝ハ肢ト同ジ兩手西ニ
四指ノ手ヲハナヌヲ

枝解トシタル之節ハ手足ノフシクニ
折ハワカツニ節ノヨリ切りワケテア
ルヲ節折トイフ義ナリ

國離上為本下為末 肺ハイツツモヒツヒ
テアル之ツレヲハナ
シテ用ユツノヒツヒテアリシホフヲ本ト
ス故ニ離上ト云フニヒツヒテ下エタレサカ
ツテアリシホフヲ下トシ末トスルニク
ハシキハ飲酒礼ニ見エアリ

尚左手 尚ハウエニスル之左手ヲ上ニシ
テ右手ヲ下ニスルニ

國右手在下 尚左手シテ肺ノ切ツタル
ヲ左手テフリサケアル

國由前降 前ハ西面ノ席ナレバ西ニアル
之必シモ西ヨリ降ラサルニナリ

此注アシキニナリ蓋シ北方ヨリ降リ 席前
ヲトフリ作階上ニ適ト見テ妨ナキニナリ

右迎賓揖至

右賓
人

右主人酬賓

賓降辭如獻禮 辭ハ洗ヲ辭スルノ謂ヒナリ

坐取解以興及位 進ニ坐シテ薦西ノ解ヲ取リ西階上ニ立ル

三揖衆賓 此ノ衆賓ハ三賓及ビ餘ノ衆賓ヲスベク

坐祭立飲 坐ハ西階上ニ坐スルニ是レ三賓ナリ

坐祭立飲 是レ衆賓ノ第四人ヨリ以下ニ此ノ大勢ハ三賓トハチガフ

テ堂上ノ席ハナケレト受爵ルトキハヤハリ大勢ノ衆賓モミナ堂上ニ上ノボルニ此ノ坐祭ハ西階上テノ

右主人獻衆賓

衆賓皆升就席 衆賓ハ三賓ノナリ

坐取以興 賓席ヨリヲリテ坐シテ薦西ノ解ヲ取ル

若親受然 解ヲ取リ興ツハ興ツテ手ツカラ直ニ受シヨク見セル

賓及奠于其所 及ハ席上ニ及ルニ其西ハ薦西ニ

大夫若有尊者 言ハ諸公ノ尊者メクシテ

大夫ハカリヲ以テ尊者トスルトキハトイフキナリ大夫若シヲモノ

尊者トナルト有ルトキハトイフ心ナリ

入門左 左ハ門内ノ西ニサキニ賓ノ入りシトキノ位ヒニ

謂此卿之人為大夫者也 此ノ一卿ノウチヨ

雖將酌自飲 此レハ大夫ヨリ主人ニ酢スルニ此ノ酢ハ大夫

加爵ヲ洗フハカリテ主人が自ラ酌ニ自ラ飲ニ酢ノ礼ヲ行フ

大夫答拜 答答拜トアリ一拜ヤラ再拜ヤラシレハレ

凡上ノ再拜崇酒ヲ以テ考ニハ此ノ答モサカメテ再拜ナルベキ

不奪人之正礼 大夫ハ尊シトイニ凡カエツテ自ラ卑フシ

テ賓ノ南ニサカリ立テ賓ヲ上ニシテ主人ト正西ニシテ對シムカハシム

是レ賓主ニ正礼ヲサセテヲヒテ此ノ方ハキニヨケテヲリジヤマニナラガルナリ是レ人之正礼ヲ奪ハサルナリ

リ出テ此ノ一郷ニ郷大夫トナリヲルモノヲ謂フ之此レハ此ノ郷ヨリ出

テシユツセシタ大夫ニ此ノ郷人ニ尊者トシテ法ツトラシムルヨケレバ

礼亦然 亦タ於旅乃入ヲスル

一重席 郷飲酒礼ニ賈氏曰一重猶言一領也

祭如賓礼 祭ハ肺醢ヤ折俎ヤ酒ヤヲ祭ルヲスベク

辭獻 アニ子ク衆大夫ニ獻ルニ義疏ニ作ル之字ヲ

長乃酢 衆大夫ノ長タル者一人バカリ酢ノ礼ヲ行フ

降辭如初 辭ハ洗ヲ辭スルナリ

右尊者之禮

衆賓皆升就席 衆賓ハ三賓之
升ハ堂上升ル

席工于西階上 鄭注云不欲大東辟
射位コレアシ、義疏ノ

案云此席工之法、典、鄉、飲、無異、俱自
西階之東始而放于東下、短云樂正命第

子贊工遷樂于下、將射而遷之、則設
席時無庸辟射位明矣

面鼓 鼓ハ瑟ノ彈カルトコトヲ云ニ面ハ
肩ヨリ前上出シ荷フナリ

内弦 弦ハ瑟ノ糸ノカケアルホツ之糸ノ
ホフ、曰ヒノチフエムケウラソトエス之

越瑟下孔 瑟下ハ瑟ノ裏ラナリ
ウラアルナリ越ト云フ之

前越 前ハ瑟ノ前後デ云フ之越ハ瑟
ノ前ノウラアルアナナリ

口莖ハ三下、縣中
章句云曰縣中則
縣有鐘鼓不止一
聲也、鄉飲酒禮
笙入磬南北面
矣

内有弦結 内ハ越ノ内之言ハ瑟
ノ糸ヲウラノアナナリ

テムスビアルエ手加深クハイラヌト之
故云手入之淺也ツノ手ヲ入ルニ糸ノ結

ビアルノガジヤマニナリテ手加深ク十分
ニハイラヌエ執トイフト之然ルニ此ノ

内有弦結トイフハアシ、教氏曰前越
去廉差遠故不可撝、但執之而已西

鼓者亦変於飲酒

縣中鼓居東立西面 此ノ注アシ、
義疏ノ案云

縣在洗東北、笙若更東、則距階太遠、
笙者必與歌瑟相比、太遠非所宜也、在
縣西而西面者、以須鄉歌者、且不可與
賓主人行礼者背也

君賜大夫樂 樂器ヲ賜フニ

又從之以其人 樂器ヲ賜ヒ又從
フニ樂人ヲ以テ賜フ

賓降 主人、大師ノタメニ降リ洗フナ
レ、賓モ堂上ニ安セズシテ降ル

工不辭洗 工ハ大師ヲイフナリ

左瑟 二人ノ瑟ヲヒク工ニ瑟ヲ
左エラクナリ

工君賜之 工ハ笙エヲイフ之

揖于下 下ハ西階ノ下ナリ

階前坐祭之飲 階前ハ西階ノ
前ナリ

升授主人爵 升ハ上ノ畫階不上堂
ノナリ

衆坐不揖受爵坐祭之飲 受爵
ハヤ

位テノナリ

辯有脯醢 衆坐アリテ子ノ脯醢
アリ共位ニ薦ル之

亦揖讓以賓升衆賓皆升

コノ注アシ、義疏ノ案云、主人獻工
而賓有降者、以為大師洗也、若無大
師、則主人不洗、即賓不降矣、且因
主人洗而降者、亦惟賓耳、衆賓與
大夫、皆不降也、觀鄉飲酒禮止言賓
升降者、可見就令大師主人洗而賓
有

右樂

降兵以賓升亦當在於卒洗升
實爵之時如教氏之說不當至獻
室之後始以賓升也注誤

將留賓以事

賈疏云事謂射事行旅無

右立

共故擯位

擯ハ司正之擯モ相モ司正ニナラナシ

奠于其所 其所ハ解ノ奠シテアリシ所之司正位北之
立于解南 位ハ解ノ南之解ハ上ノ奠于其所ノ解ナリ

算之事云云

詩云云

賈疏云引諸者證監典正為一物皆祭儀法也

當酌以祀其位顯其事也

上八堂下司正之位其事トハ司正ノスル事ナリ

坐奠解俎 坐ハ其位之解ヲ奠スル所ノ南之

三耦俟于堂西 三耦ハ六人之堂西有司請射 有司ハ司射一人ノ有司也加射ヲ請ヒニスト賓エムヒテ司射カイフ之司射モ此有司ウチ主人無次 次ハシタラスル休息所

隱蔽而已 堂西エユキ身ヲ隱シニエヌラシテシタラスル

旌中籌楅豐也

決楅豐也 楅ハ開ク之

遂射鞬也 左リノ肩エカケルカワカスギナリ

所以遂弦者也 弦ヲ遂ルヲ得ルトコトノ者也トイフ言

謂之拾射鞬ノ一名ヲ拾トイフ

所以蔽膚斂衣也 膚ハ左祖セシハ知エ之衣ハ左祖

射器 射鞬テツナギラ右納

上堂西廉

上ハ經文ノ在共上ノ上之西廉ハ堂上西ノフキ之

見鏃於附 鏃ハヤジリ之附ハ弓把之弓ノ平ナリ

命上射曰某御於子 上射ハ耦ノ上ニタツ一人ヲイフ

鈞弦

右比 其下射ノ人ヲイフ言ハハ知レソレハ貴公ニ屬シニストイヒツクルナリ

鈞弦 右比射

挾乘矣於弓外

旌中籌楅豐也

矢在弓下 弓ハタテニモタラシアリ矢ハソノ弓下ニ横ニシテアル

北括 括ハ羽ノツイテアルホウ之北括ナレバ鏃ヲ南ニスルナリ

倚于堂西 堂西ハ堂下テイフ西序ハ堂上テイフナリ

國者當員候也

倚旌于侯中 旌ヲ侯中エモタシカケヨト獲者命ズルニ
坐取旌 サキニ射器ヲ納レシトキ納レテ
命ヲウケテスルナリ

右遷樂 右遷樂

國拾更也 更ハカワルベクナリ此ニ讓
リマヒカワリテ弓矢ヲトルニ

拈ハ其効ヲテ決拈 拈ニハアラス
ト之タカヒニスノキミニ

左把弦 弦ハ弓ノエナリ

國皆執以俟事 皆トハ射器ヲ納ルト
キ弓ヲ一人カイレ矢

ヲ一人カイレ其ノ外ニナ一物ヲ一人ツ、
納ルニ其ノユク品モアル射器ヲ一物ヲ

立キ設中之西南 所トイハ此時
ハナキナリ

右三耦就射位

三耦皆進 進ハ堂西ヨリ出テ
ムナリ

國明卻時還 賈疏云司射先在中西南
東面今三耦立定卻來

三耦之北東面明卻時右還乃復東面
也々々シ本文ニ司射、三耦カ射位ニ就
クニテハ所設中之西南ニ立テテ三耦
ニテ司射ノ西南ノ射位ニ就ヒテカ
ラ司射ハ又タ少シウシロエ卻ヒテ
三耦ノ一キタエナラヒ立ツニ司射
東面立テ三耦之北ト云ハ即チ是
レ之ニ少シ卻ヒテノ之故ニ司射ハ

一人ツ、執ツテ俟ツ之但シ射器ヲ
納レシトキヨリシテ執ツテヲルニハアラス
此ノ執以俟事ハ射事ニサニハジ
ニラントスルニツクデナリ

國受於納矢而授之 此レ經文ノ遂授矢
ノ注ナリ蓋シ納弓

射矢ハニナ一人ツ、シテスルノ之然ルニ此ニ
耦ニ授ルハ一人ノ有司デラヲ授ケ
スルニ又タツノ弓ヲ授シ人カラ矢モ授ル
之故ニ納矢者ノ執以俟事ツテヲル人
ヨリ弓ヲ授シ有司ノ手ニ受ケテ三
耦ニ授クルナリ

耦ニ授クルナリ 耦ニ授クルナリ
挾一个 一个ハ箇ト同ジ

國未達侯處也 達ハ去ノ字ノ宮ニ侯
處ハ堂西ノ之

始ノハ三耦射位ノ東北ニ立キテ又
タ卻ヒテ直北ニ立キシニ

揖進 此ヨリ及物揖ニテ凡ソ六揖ニ
誰人ニ向ヒ揖ストイフヲシレズ

蓋シナニユ揖ストイフノアテナク礼
法モトカクノ如クナルベキナリ

堂則云也 教氏曰堂即庠、鄉学

國序無室 此ノ注アリ、序モ室アル
ノ説ハ義疏ニクハシ

國周立四代之学於國 四代ハ虞夏商周之
國ハ天子ノ都ヲ云

國左物下物也 物ハニツアリ上射ノ物ハ堂
ノ右アリ下射ノ物ハ堂
ノ左アリ是レ下射ノ物ニテ下物之左
物之下物ハ東ニアリ右物ハ西ニアリ

不決遂因不射不備
義疏案云以大射
例之則不決遂直變
於侯禮而後罷耳
非為不射也

今文豫為序也乃夏后氏之學

亦非也 言ハ序ハ夏后氏ノ學ニシテ
周ノ學アラズ故今文ニ序

ニ作ル北也トシ然ルニ此ノ注アシ
義疏ニ辨アリ蓋シ今文ノ豫モ古

文ノ序モ同韻ノ音通ニテ同義ナルハ
シ皆ノ訓字ナルベシ鄭注ノ射字

ヲ引キタリ如キハヌベテ蛇足之

還視侯中 還ハ右ノ方ト上ノ

俯正足 俯ハ首ヲシタエムケテ

忘在於射 志カ射アリケレバ兩足
ヲナラヘ先ギニツヨク

侯中ヲ見シカメノ左足ヲ履ニ立
足ヲ還シニワカニ定メ立ナル

不去旌 侯中エモタラシアル旌ヲ
トラスシテ其ノ一ニツク

以共不獲 獲ハ唱獲ノ一

擗升射 升射トキ揖セシキ之升リ
シ時カ六揖ナレバ降時モ六揖

降出于其位南 其位ハ司射ノ位
所設中ノ西南ノ位

以及位 位ハ即チ上ノ出于其位
南ノ位ナリ

大射曰左執附 大射ヲ引キ經文ヲ補フ
蓋シ右執箭左執附

宮ノ聲高ノ聲テ
呼ハルヲセサル

儀者 大射ハ宮高ノ
話ヲ以テ呼ハル

之御射ハシカラズ之レ威儀ノ
者ケルナリ

襲及位 襲ハ左袒シテツルキモノ
ヲキルヲカマライレル

無獵獲 獲ハ矢カツレテカスル
獲ハ獲者ナリ

舉旌以宮 宮ノ音テ節表ヲ
取リ旌ヲ舉ゲ唱獲

算ハ獲セシカズ
ヲトルカストリ

ハカカストリハセズタ
獲ヲ唱
フルカリナリ

命取矢 司射ヤ三耦ノ射タル
矢ヲヒロヒアツカス

福猶幅也 賈疏云若布帛有
邊幅整齊之意

南當洗東肆 南北ノ節ハ洗ノ
アルスシアル

東肆ハ西ヲ上ニシテ東エ肆子シ
西ヲ上トス故注云統於賓

委于幅 委ハ幅ノ上エヨコニシテ
スケコロカシテツク

拊也 拊ハ矢ヲナデテソロエ
ルコ、ロナリ

四四數分也 四ホシツ、四ホシツ
數又分ツ

凡事升堂乃袒 此レ特ニ司馬ノ
ヲサシマフ

國聲和待呂
相生

右初射

右取矢加于楅
右再請射

若々不備 矢ノカズタラサルニ

取矢不索 矢加メテ取リツクシ
テナヒトイフニ

向獲者許諾此弟子曰諾事同互

相明 此ノ注ヲ義既ニ存疑トシ辨正ニ
教ハ止候獲者猶負侯而取

矢之弟子已退在西方之位故獨應之

遂告于安ス 請射于賓ノツヒテ遂
告ルニ告ハ獨シ其ルニ

釋己之志 釋ハ思釋ナリキヤ
ツケテテ省ミルキニ

禮一命已下 礼ハ猶云礼曰ナリ
一命以下ハ大夫ノコ

齒于鄉里 鄉里トハ鄉里ノ無
官ノ廢人ヲ云ニ然

トス辨正ニ教氏曰士謂衆賓也
大夫宜与衆賓長為耦若衆則

以次而為耦不足乃及於堂下者大

夫不自為耦者变於君所之射也
此賓主人皆士於衆耦之上下射不敢俱

以大夫為之

衆賓將其射者 衆賓ハ三賓之典
射者モ蓋シ三賓之

大夫之耦為上 衆賓ノウチテモ大夫
ノ耦ヲ上トシ餘ノ衆賓

ハ又ツノ下ニ三耦ヲ上トシ大夫ノ耦ハ衆
賓ヲ其次トシ餘ノ衆賓ハ又ツノ下ニ

右比衆耦

言不降者見其志在射 未トイユハ
是レイツレハ

降ルヲ知ルベシイツレ降ル一知ハ是レ
奉射事ヲ行フニ知ルギニ見其志ニ

乃比衆耦 耦者也大夫之耦ハ存焉
衆賓ハ堂上

衆賓射者降云々 三賓ヲ云々

卻手 手ハ右ノ手ニ矢ヲ取ル手ニ

順羽 順ハナデ、ソロユル意味ニ

南路也 路ハタヲスニラヲヨコ
ニスルノ南ノ字ニ詳ニ

蓋ニ弓ノ上端ノホウガ南ノ方ニム
カウシラトコロニサシ南路トイフナルカ

手放而下 順羽ニハ右手テ矢ヲトリ
附ニハサシナカラ遂ニ右手

ハ矢ヲナデ、羽ヲ順シ下ルニツノ矢ニ
手ヲツケナカラ下ルヲ放而下ト云フ

下ルト云ハハラフ横フニ左手ニテ附ヲ取
リ弦ヲ下ニシテ執ツテアルユニ蓋シ

上射ハ附ヲ上ニシテハラフ横フ下射ハ附
ヲ下ニシテ弦ヲ上ニシテハラフ横フナリ

備不整理也 整理ハ羽ノ整フテアルヲ
之言ハ羽整不整故順之

不言母周 賈疏云大射左還母周云々
周ハカラガヒトメグリメクルニ

在作非君 言ハ作ニアル人カ君ニアラ
サレハ之レ此レ射礼ノ

ナリ大射ニ君在作ノ父アルナリ

覆手 手ハ矢ヲトル右ノ手ニ

其他如上射 其他ハ兼諸附一執弦ノ類ヲ云フナリ

皆少進 皆ハ上射下射ニ之進ハ南ノ進ム之章句云上射ハ東南

上進ニ下射ハ西南ニ進ム蓋シ斜ニ進ニ上射下射ハ必クアキヌキヌヨフスルニ取誘射之矢 上矢ニアル司射ノ射セシ誘射ノ矢ノ四ホシ楯アルモノニ

兼乘矢而取之 兼ハ誘射ノ四矢一ツ收テララルエニ即チ上矢ノ楯三扱一介ノ一介ノ矢ナリ

國 童子逆受於東面位之後 此レ義疏存疑ト

セリ 國 教氏曰此西方即當西也去喪礼以東堂下西堂下為東方西方亦共徵也亦有司即弟子之納射器者因留主授受於堂西故此下射出於其東面位之後以乘矢就而授之夫射儀曰以授有司於次中皆襲及位亦謂就而授之

一耦揖升如初 一耦ハ三耦ノ一耦ニ即チ上耦ナリ

去侯 侯ヲ負ヒラル獲者ヲ之ノ方ニ去ラシムルナリ

國 君子不必也 衆ノ射事ヲ知ツタルトイフヲ必セサル

北面命釋獲者 北面ハ命ズル時ハノ視ハ西面ニ北面ニアラズ

國 肅慎氏貢楛矢云云 賈疏云國語文

審序西 序ハ庠序ノ序ノ列序ヲ云フ東序西序ノ序アラズ

襲及位 位ハ堂上ノ位

國 或言堂或言序 本文ニ升堂操トアリ是レ言堂ナリ

右再射

上握為 上握ハ握ヨリ上ニスト讀ムベシ然レバ注ト合セテ取矢

東子テチカヤテクニリラク其ノクニ

東ヲラクナリ

國 是ハ不格也 矢カ兼東テ一矢ツレハナシテキユ取ルトキ拾セサル

國 順羽便也 イツシヨニ兼子取ルニ順羽ニモ一矢一矢ニ便也

朱子曰握上之說未明疑東之之處當在中央手握處之下使握在上則去

鏃近而去羽遠取之便易也○教氏曰上握謂上於手握之處也矢以鏃為

上括為下下經云面鏃是也

先教右獲 中ハ一ツナレ共ニ前ニ右獲左獲トニワケテアル

國 自近為下 自身ノカラカニ近キホウヲ下トスル

坐兼飲筭 右獲ヲ數フルハ二筭ニテ取リ左獲ハ手ニ先ニ總

司馬初決也

義疏云 賈疏云 義疏云 義疏云

女子兼子飲ノテ手ヨリニ筭ツク
ヲロシ委スルナリ

十則異之
キヨフヲ異ニスルナリ

國 交於右
右獲ハ一宛以取云左獲
ハ兼飲筭云是レ變云

國 若干奇
賈云奇則一也一外無
若干言若干者衍文也

坐兼飲筭
筭ハ左右ノ筭之左獲
右獲ノ筭ヲツ兼飲云

國 所以承其爵也
豊ハ爵ヲノセル
タイナリ

降袒執弓
致之袒執弓三字衍

國 不俟其黨已酌有事
言ハ勝
黨ノ子

右飲不勝者

飲射爵者辯
射爵ハヤハリ上解
ノ之罰爵ノ之

皆三祭
三祭ハ下見ユ此時
ラサルナリ

國 祭侯三度也
左右中ノ三處ヲ祭ル
之下見ヘタリ

國 其設薦俎西面錯
其設薦俎ト上
薦脯醢設折俎

ノ之ツノ時
有東面シ設ル人西面ス
文錯スト云フ東ト西ト
ニシタル之賈疏云

其ノ上ノ薦脯醢設折俎ノ地
ハ下見左ノ西北
ニテノ位テノ之其位
ニ薦俎ヲ設ル南ヲ

上トス注以南為上ト云フ是レ之

國 此レハリ上薦脯醢設折俎ノ之
位ハ左ノ西北ニテノ位ノ之

存疑鄭曰与設
西面當其北
義疏云
俎皆順獲者之面而設
以也雖以祭侯面位則位人
此亦其他祭異也

加解ヲ豊上ニ奠ヒテス少降リ射位ニ
及リ其ノ黨ノ衆賓カ堂上エノホリ
来ルテ俟チ居ラヌ其ノ故ハステ酌シ
テ事ト有リヲハツタレバナリ義
疏此ノ注ヲ
存疑トス教氏曰反
位反堂西之位

司射先反位
堂西ヨリ射位ニ反ル之ニ耦及
衆賓ハイカ及ラズ故ニ先反ト云

國 居前俟所命来
居前ハ堂西ヨリ前ノ
ホフニ射位ニナル

ノナルベシ言ハ前居リ所命ノ三耦衆賓
ノ堂西ヨリ射位ニ進ミ来ルヲ俟ツ之

龍表而俟
表ハ不勝者釋弓而巳勝者又
說決拾而襲也云

有執爵者
爵ヲ執モ解ヲ執ルモノモ同ジ
ト見ルベシ爵解トモサカズ之

此注ハ義疏ニ存疑トス
教氏其設之
亦當侯中在獲者之前薦俎皆北面設
之如在薦南

適右个
个ハ意義ナシ右ノ方トイ
フナリ

國 新之
實ニ新ニスルニ非ズ新ニスル心
ロモチヲ示スナリ

國 亦二手祭酒
二手ハ両方ノ左右手ノ二
ツナリ此注ハ義疏ニ存

疑トス
大射獻侯所用者下籩之散也故
二手祭之此則堂上之觶耳似無須此雖為侯

祭亦与他飲食之祭同他飲食之祭亦祭神也

國 明其享侯之餘也
享ハ祭リシヲ云ナ
ルカ言ハ侯ヲ祭リシ

右射者復取矢于栢

國旅酬下為上尊也

兼諸弦附 諸ハ矢之矢カ四ツアル

ハハ四ツアル兼矢ヲ三ツハ附エア
ハシ一ツハ弦エカフス之教氏曰拾取
時猶皆兼諸附至福南北西則不
挾矢但取一矢兼諸弦餘三矢則
兼諸附自若亦多播三挾一之儀且
如司射之執也云々

司馬及為司正 及ハ故職ニ及ル之
及立ノ及ニアラズ

退復解南而立 退ハイツクヨリ退
クカシレズ蓋シ堂上

ヨリ降り退クナルベシ

國降時如初入 此レ篇首ノ遷祭ノ
トコロノナリ

事畢今姑從義疏ナリ

國進西南面立 郷所酬 讀ムベシ

某酬某子 存疑鄭氏曰此言某酬某
子者射礼畢於飲酒飲

酒言某子受酬以飲酒為主 國司正
之相故 司射之比耦也相旅而曰某
酬猶比耦之言子與某子射也相
旅而某子受酬猶比耦之言某御

國樂正及于西階東 樂正ハ西方ニテ
弟至贊エラ命

ジテツレヨリ堂下西階ノ東上及ル之
蓋シ樂正ハコトテハ堂上升ラザル之
賈疏云知不升者以正樂畢無告請于
賓之事コノ本文ノ于字ヲ注疏ニ自

賓之事トス解シカタシ義疏ニ于字トス

右旅酬

國加燕禮勝爵之為

右二人舉解

於子也蓋當兩告之某子受酬之云即
所以作受酬者也鄉飲酒礼不言作受
酬者故其辭曰某子受酬為受酬者
言之也此經既言作受酬者故曰某酬
某子為酬者言之也二經互見並義
耳

反奠于其所 其所ハ上ニアル薦右之及
奠ハモトアラズ及ニ奠之

國盛礼已崇 言ハ盛ルルニ極ル意ニ組

若無大夫云々 存疑鄭氏曰長一人舉
解如燕禮勝爵之為

存疑注所謂長一人者於二人中其一長
者也無礼承二人勝爵之後故有二人此
前無二人舉解之節則若無大夫惟當
一人其解如旅酬之為不得如燕禮勝爵與

國從降尔爲將燕 賈疏三賓無
俎亦從降知將

國空屨 空下ハ又ヒテアルトコロヲサ
シテ云フ之

國啗具 狗ノ戴醢ナリ

國所以案酒 案ハヲサエルトイフ口
ナルカ

國互相備耳 賈疏凡辭皆司正請
于主人有命司正乃

傳告賓今上文云司正請坐于賓直
見司正傳主人辭不見主人曰請坐于
賓之辭此下直見主人曰請徹俎不
見司正傳主人辭以告賓是互相備也

使二人奉解 義疏云此人即向所使
之人此解即向所奉
之解未嘗別使他人更奉他解也而經
必重言使二人奉解者明此無算爵所
以終向者奉解之禮也

國不復崇 崇上拜崇酒

國其或多者云 賈疏若有一大夫則
衆賓二人無所酬直二
人迭飲而已若大夫四人已上多於三賓
自三人之外亦無所酬則亦自相酬迭飲而已

國亦錯焉 堂上ヨリ堂下ノ人工酬スルト
キニハハ錯ラカユキハハ酬スル

國不使執解者酌 堂上ヨリ堂下ノモノニ酬スル
トキニ酬者加自酌テ人酌セザル

國不以己寡孤人也 己尊トハ酬者
堂上ノ人ナレバナリ

國執解者酌在上 堂上ノ酬ハ執解者ガ
酌ニテ堂上ニナル

國辯降復位 辯ハ堂上ノ辯
降ハ執解者又

國上使之勸人耳 上ハ上文ノ上ニ
アリシニ已飲シテ又

實解 解ハ二ツニ即チ上ノ降莫于
解ナリ

反奠于賓與大夫 賓ト大夫ト薦右
解ヲヌク及シ奠ク

國今文無執解 本文ノ執解者トイフナ
キニ然ルニ執解者トイフ

國賓坐奠解于其所 其所ハ薦右ナリ
是一人奉解時之

記不與 賓ハ正賓之昨日ノ賓
イフナリ

國昨日至尊 至尊ヤ人ト云フニ昨日正賓
ヲ指スニ義疏至尊作正賓

使能不宿戒 贊者ノ類ヲ能ク使ヒ
テエカラ宿戒スル及バズ

國為記者異耳 御飲記ニ五膳トアリ此
五膳トアリ膳モ

國膚理也 春脇肩肺臂ナクハ
スナリ此ハハタスジノキ

右記組 醢 右記脯
テ出ヌナリ

右再算爵 右算出

右則拜辱

國鄉賓主用處士 鄉賓ハ主
トシテ處士ヲ
用エルナリ

ナケルハ解スハカラズ義疏無字ナリ
執解及賓解云ト執解ヲ下ニ連讀ス

國賓解大夫之解云 此注上文ノ義疏
ニ上經注正出ス是之

國實解之為之 此本文ノ實解ノ解ハ
ノニテ爵字改メタル

國合鄉樂 國風ヲフテ詩ヲ種ニ取
リ合セテ歌フ之合ハ合奏ハ非ハル之實

遂從之拜辱于門外 之ハ賓ヲサス之言ハ
スルニ主人加賓ト

ヲラフテ賓ノ門外工辱ヲ拜ニユク
拜辱于門外ノ門外ハ賓ノ門外

無以 敬曰昨日正禮已無介乃言之嫌不射
而飲或用也 者

主人不崇酒 不崇酒ハ不拜崇酒ノコト
醢 右記脯

右記行禮諸節
右記連者諸公之注
右記大夫入節樂正之位
右記堂
右記立者之位
右記立者之位
右記立者之位
右記三耦
右記司射弓矢扑備處
右記司射司馬並行節

國薦於解南 此レ司正ノ位之本
文ノ其字ハ司馬サスレ

國者並行也 司射ト司馬トイキドギニ
事ヲ行フ著ス

國燕射 燕シテ又射礼ヲスルヲ云フ
別ニ燕射ノ篇ハシ賓射ト

下文ニアルモ同ジクニ篇ノ賓射カ別
ニアルニハアラガルトナリ

國當張采侯二正 采ハ采色ニ正ハ
二重ノ正ニ回ルニ

國各以其鄉射之礼而云 各ハ天子諸侯
以字猶用也

國射熊虎豹云 此ノ二十一ニ義疏
ニ存候トス辨正

朱子曰注說不安恐射此野獸止是取其
服猛除害之義○王氏應電曰虎熊豹

皆獸之極猛者春秋書多麋害稼之
獸取以為侯示驅猛除害之意

凡畫者云 義疏一說此丹質專
承布侯而言所謂凡者

凡大夫與士也所謂畫者即指畫以
虎豹畫以鹿豕者言也蓋熊侯白質

麋侯赤質而布侯則丹質也亦通

國毛物之 此上一條上誤倒セリ
虎豹鹿豕ノ毛色ノ如キ色

國至東頭為距 東頭ハ物ノ橫畫
ノ東頭之ナリ此ノ

國後足來右而云 後足ハ右足ニ
來合ハ物ノ橫

古記畫西頭上來リフム之故ニヨリナ
ラベ立千南四ニナルナリ

右記司馬命負侯位
右記適堂西所由

由其位 賈氏曰司馬自在己位遙命
之○其ノ字ハ司馬ヲサスレ

以鴻脰韜上ニヨリ 鴻ハ鳥ノ長脰者
也ト注セリ蓋シ

枉ノ上ヲ韜ニテ鴻ノ脰ノヨリナカクテ
ニスルニ存疑 鄭氏曰無物者謂小國之別長

也其鄉大夫一命其別長不命者無
物七尺曰侯 孔氏曰八尺曰侯 侯之說

非一孔射小爾雅曰尺謂侯王肅從之包氏
論語注曰七尺曰侯也此注同然趙以孟子

注房氏管子注比同孔氏書傳以八尺人
為侯

國此翻旌也 此ノ字ハ白羽朱羽ト糴ス
ルモノヲサシイフ之賈

既據下文士鹿中翻旌也

國翻亦所以進退衆者 賈疏云
此非直

用之於獲按喪大記君薨時執翻
居前詔傾虧亦所以進退衆人也

橫之 矢ヲ弓エツケ両方ノ手テ矢ヲヨ
コニ挾ニモツエニ横フナリ

國二指謂云 二指ハ本文二指之間ノ
二指ナリ

國此以食指將指云 此ノ二指之間
ヲ挾トイフハ

食指ト將指トノ二ツノ指ヲ挾ムト云フ心
之食指ハ第二指之將指ハ第三指ニ

國福長如筍云 存疑 鄭氏曰西端為龍
首中央為蛇身相交也

國古器皆有首尾如俎豆皆通數之
類皆然此福亦當然也韋當者以

右記之法
右記司馬
右記再
右記射
右記漸進
右記序

右記射位左右

此注ヲ義疏ニ存疑トス
經云後者遂取誘射之矢此注乃云及
位禮成乃更進取之似相矛盾疏上射字
與後者二字不相應當作下耦之射

直心背之衣曰當

真アタル之背之衣
ハム子ウシロナリ
射擲外

奉之先首

サメゲモツトキ苗ノホフヲ
ムカフユムケテ奉ズルニ

福ノヨリ背ユマワ

束子ルヲ當ト降
イフナリ

右記國教擾之獸

ヲシユナラシテア
ルケモノ

右記福

赤黒蒸也

アカク口ヒ漆ノイロ

右記大

薰襦

薰ハ襦ニ作ルベキニアカ
キイロナリ

本意在侯去傷害之心遠

本意ハ
射者ノ

祖法

閑之者貫之也

菟狩テ閑スハ皮
ヲ貫ヌクニ

本意之去傷害之心モ射者ノ心之

矢之重

貫之者習之也

皮ヲ貫クハ戰
射ヲ習ヌクニ

右記捷
右記堂上衆賓

謂及位云

位ハ福ノ東西ニ立ツルノ
位之射位ノ一ニアラズ

凡祭取餘獲陳於澤云々

於澤宮

中者雖不中也取

澤宮揖讓之射カ
今中ル者ハ嚮ニ

圍中勇力之射テ中ラストイエ

獲ヲ

取ルノ之是レ揖讓ノ射ヲ貴ハバニ

其射又主中此主皮之射也

存疑鄭氏曰不主皮者貴其容儀比於禮
其節比於樂不待中為馬也尚書傳曰戰則不
可不習故於蒐狩以閑之也閑之者貫之也
貫之者習之也凡祭取餘獲陳於澤然後

右記
主皮

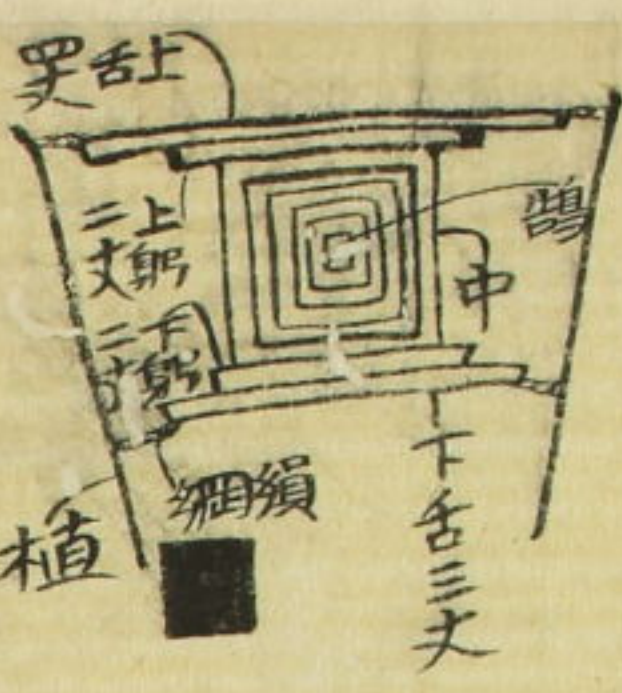
卿大夫相與射也中者雖不中也取不中者
誰中也不取何以然所以貴揖讓之取也

右記主
人飲處

臠若膊脰敵之折以大夫之

而賤勇力之取也於圍中勇力之
取今之取也澤宮揖讓之取也澤
習禮之慶非所於行禮其射又主中
此主皮之射也案主皮之皮堅厚難
射非皮侯采侯獸侯之比非強有力
者弗能貫也故凡射禮不以之若射則
未嘗不以命中為馬亦未嘗不以矢貫
於正鵠為中也鄭氏此解適與經違又引
尚書傳既以射於澤宮為揖讓之取
何又以當主皮之射乎蓋主皮之射本
以習戰而非禮樂之事觀象記及論語
所云足以明之矣尚書傳本難徵信况
又顯然矛盾邪

郷侯三ノウ之儀常



引肺不離

右記獲者釋獲者相實
右記大夫說矢束
右記歌之終教
右記射耦無定教

肺ハカヒナノヒジブシ之敵ハ
右記旅衆賓トイッシヨユ行フトキニ後
及士大レテハツカフアシキ之既旅トハ旅酬スミシ

皆之獲者也
釋獲者ト獲者
皆トスルナリ

以言肺謂引肺不離
言肺トハ本
文ノ云フト言

嫌無祭肺
嫌アリ故
皆有祭ト
イフテ別ニ祭ル肺モ

アルコト目ニスナリトイフ注
ノ心ナリ

士入齒於鄉人
郷人ハ堂下ノ衆賓
之ハ堂下ニ立イ

上幅
即千最上幅之上ノ舌ノ
中ノ四方ガ十尺ツミナリ

今官布幅廣二尺三寸
漢時ハ布ノ
ハヲ二尺ニ
寸ニ定メアルナリ

旁前一寸
ニ寸ヲ削レバコリニ尺布之
此ノ二尺ニ五ツツミタテヨコエ用ヒテ中
トス如シ四方ノ尺ニテ布五丈トナル

侯道
二十尺弓二寸以為侯中
侯道ハ
堂上ノ物ニテノ間之共ノ間ノ相去ルコト
弓ヲ五寸ヨセナカサ又弓ハ六尺之季
弓ハ三寸トナル共ノ五寸弓ノ弓一ツ
トニ寸ツミト一ニ寸ヲ五寸ヨセテ五丈
トシテ共ノ寸方テ侯ノ中ヲスル之即千
中十尺之布五丈ヲ用ユルモノ

正二寸
正ハ正味ニ寸トイフクヲヒ
ノ心口モチノ正ノ字ナリ

倍中
十尺ノ中ニ倍シ躬ヲ二十尺ト
ス二十尺ハ即千二丈也

謂上
也居兩旁謂之个左右出謂
之舌
上个ハ上舌ト同ジキ又兩旁ニナル
トコヲ以テ言フモバ个トイ

左右上出テラルトコヲサシテ言
フ立ツレハ舌トモイフ之共ノ實ハ舌
モ个ニ同ジ上个ハ上舌之別物ニツ
アルニ非ズ上舌ノ幅ヲ躬ニ倍シ布四
丈ヲ用ユル之即千上文ノ上个五尋
是レナリ

半共出於躬者也
躬ノ兩旁上出
テアルトコ上舌

ハ一旁一丈之兩旁テ二丈出テアリ下舌ハ
一旁五尺之兩旁テ一丈出ル是レ下舌出
ルトコハ上舌ノ出ルニ半バ之故上舌ハ躬
ヨリ出ルニ丈ト出ルニ丈トテ四丈之下舌ハ
躬ヨリ出ルニ丈ト出ルニ丈トテ
三丈ノ布トナルナリ

凡鄉侯用布十六丈
中ノ布五丈之躬ノ上ノ
テ四丈之舌ノ上ノ下ノ七丈

以類

以類

以類

以類

以類

右記郷侯之度

以上アハセテ十六丈ノ布トナル之

國數起侯道五十ヲ以計 侯道五十

少上起シテ中ヲナシ其レヨリ倍中 倍躬シテ以テ計フルナリ

尺有握 一尺有四寸之握ハ四寸之若シ 一指がオアリ手ヲ物ヲ握

握素 素ハケツツテシラゲル ナリ

國利本一 賈疏云側手ヲ膚ケ

一膚ヲ指ヲ四ツトス是亦四寸ニナル 握テ四寸ニテトヲナジト之

右記 利本尺 シタノ持ツトコロヲ一尺 ケツルナリ

退于物一 時ハ進ムナルベシ

答君而侯 答對也ト注セリ東面

君ノ又々射ルヲ俟ツテヲル之

國授之稍屬 君が乘矢ヲ射ルニ 一射ゴトニ一矢 一矢ツツ

稍ヤニ屬シテ授ケルナリ

若欲君如燕則夾爵 燕射ノ君ニ 飲ニス時ノ

礼ハ爵ノ夾ム之夾トハ始ノ君ニ 獻ジ君ステ一飲ニシアトヨテ又々

右記燕射之儀

國如燕賓滕觚 于公之礼云云

此ノホウニ其ノ爵ヲトリ酌ニテノム 故ノ君ノ飲ム前後ニ一度ツツ此ノホウ

ニノ君ハ此ノホフニ度飲ム間ニ只 夕一度飲ム是レ夾爵ナリ

復自酌 自酌ニテ自ラ飲ム ナリ是レ夾爵ナリ

義疏云自此以下數節蓋通燕射 大射言之

國用翽為旌

此記言君之中典所獲者有國中郊 竟其真而不言為某射則是其所以 異也若然則固有射而用皮樹中翽旌

燕射而用原中龍旌者矣

國通帛 通トイハハナリナツタキ キラズシテツノノマニアル

無物也 物ハハタシルシノ一ニ

國臣不習武事於君側也 卿ハ誤字ニ 當作側之

國不袒纁襦 纁襦ハアカキジ ユバンナリ言ハ

大夫ハ士ト射ルトギハ袒シテ 纁襦ナレト君ト射ルトギハ 纁襦ハナラザルナリ

國周書曰北唐 賈疏云北唐見國語

君國中兼云云 義疏云此條朱子通 詳以入燕禮記

於竟云云 附燕禮記 辨正 教曰

此記言君之中典所獲者有國中郊 竟其真而不言為某射則是其所以 異也若然則固有射而用皮樹中翽旌

右記大夫侍君
射袒法

國厭於君也 君ニ壓倒セラレ
ニヨサエラレテ袒襦襦ハテ
ケヌトイフヨナリ蓋シ君
ノ射ルハ袒朱襦ナリ上文ニ見
エタリ

國今文無射 大夫射ノ射
字ハ今文ニハ

ナキナリ

射先 射先 禮論陳氏祥道曰諸侯之
射先 行燕禮以詔之鼓以前
行 射飲酒禮旌以詔之鼓以前
之朴以戒之定其位有物課其功
有宜使人浪爭心於揖遜之
間奮武事於燕樂之際德

行由是可觀、齒位由是可
正、所以交接於鄉黨也、
正

儀禮筆記卷之三

丙申正月以後

三月廿五日

柔始生

燕礼第六

右我與燕者

國謂之群臣也朱子曰群臣朝畢將退君欲與燕使小臣留之

國其官之所饌其官ハ燕ニアルカニ諸臣之

國聽酒人之成要者ハ饌ハ飲食ニトコノ諸官ニ貴也別アリ饌スルモノヲ差等アリ

國露寢露當作路

壘水在東東ハ洗籠ノ東ニ

國亦南陳言西面尊殿屋ハ四方ニ雷アリ故東雷アリ

國亦南北以堂深設洗籠ノ南北ノ節ハ堂ヲハナ

レルノ堂ノ深サホドニ

左玄酒左ハ南ナリ兩方壘ハ南北ニアルニ

門西寢門ノ西ナリ

國諸侯之官無司几筵也天子ハ天子ハ司几筵

天子有司几筵布席有真設ノ官アル之諸侯ハコレナシ賈疏云

國周禮諸侯酢席莞筵粉純加

簾席畫純賈疏司几筵文彼諸侯祭祀受酢之席引

之者見燕席与酢席同

右即位

祝史

正君之服位者也 服ハ衣服也カ位ハ居延也

人之也 ケラヒナレモ至ノヨクアツカハズ他人ナミアシラウ也

立於尊南 尊ハ在大尊之

玄酒之帛為上也 二人ノ執帛者デ玄酒自酢

帛ヲ執ルモノヲ上トシテ東

又辞云々 賓降ハ二タビ辞スル也

又辞云々 賓降ハ二タビ辞スル也

右主人獻賓

右命賓及執事者
右賓入
右捧至

右賓酢
主人

不捧酒 其氏曰捧酒謂捧謝其以昔酒飲已也

有象骨飾也 教氏曰象骨恐當作象齒

取象觚者東西 觚ナリ取ハ

膳籩アル觚ヲ出シ取ル之主人盥洗象觚トギノ

升媵觚于賓 教氏曰觚當作

公命長 長ハ長幼ノ長之卿大夫ノ中デ年ノ長セシモノ

往來以右為上

作大之長 長ハカシラヌ

卿存也 大夫長トイユバ卿モ其トイフモ同ジキ又下文ノ獻卿于西階上ノ卿モ此ノ升受旅中アリ

言更解卿尊也 解ヲ更ルトイテイフ之卿ハ尊キ也故ニ卿ハ解ヲ更ルトハセサルナリ

如受賓酬之礼 大人ノ辯ク酬

ヤハリ長が賓ノ酬ヲ受ケシ礼ノ如クスルナリ

獻卿于西階上 此ノ卿ハ即千上ノ大夫長升受旅

卿之大夫長トアルハ即千此ノ卿ナリ

酬而云々 賈疏云主人獻君

酬君然獻之礼成於酬故使二大夫媵爵于公以當酬但君恩既大即為賓奉旅故酬偏乃獻卿以君尊卿卑是以君礼成卿乃得獻也

君ノ酬ヲ行フ之別尊卑也トハ

尊ハ君之卑ハ卿之君ノ酬ヲハリテカラ卿ニ獻スルニ尊卑ヲ別ツカ

飲酒成於酬也トハ酬カスニテカラ卿ニ獻スルニ凡ソ飲酒ノ礼ハ酬ヲスニシテヒトニ成ル之トイフ心

右公為賓奉旅

獻卿于西階上 此ノ卿ハ即千上ノ大夫長升受旅

酬ヲスニシテヒトニ成ル之トイフ心

孤一人言諸君容收
有三監

右主人獻諸公卿

兼卷重席

諸卿ヲ、セヒノ重席
ヲイツシヨ、カ子ニクナリ

敬私昵之坐

若命長致 長ハカリ一人ニ命シ致サス
之長ハ即チ上ニ大夫ノ一人ニ

膝爵者奠解于篚 此ハヤハリニ大夫テ
イフ之長人アラサ

自優暇也 言ハハニ大夫ガニ解ヲ膝
セハナリセハシクシテ或ハ

公於衆 能ハハルヲモアルエニタビ長一
人ニ命シツノ解ニスルニ是自ラ優暇ス

於公用酌賓解之處 公ノ賓ニ酬
スルニモ薦ノ

右再膝解

南ニシテアリシ之上ノ膝解于公ノ節
ニ見エ入り

先膝者之下解也 サキニ膝解
于公ノトキニ

二大夫カニツ解ヲ奠キシ其ノ一ツ
下解ハ堂上ニテ南ニアル解ヲイフ
サキニニツノ解ハ北上ニツノ北ノ
解ハ已ニ用ヒ今ニ下解ヲ用ユルニ

賓則以酬長之則也 公ヨリ賓
ニ酬セラレ

ハ則チ賓ヨリ長ニ其ノ解ヲ酬スル
ナリ若シ長ニ先ニ酬セラレハ長ヨリ
ニ夕賓又酬スルナリ

少牢饋食禮曰皇尸命工祝

樂正于天子樂師也

諸侯テ樂正ト云
天子テ樂師ト云

天子大僕二人也 天子ニ大僕ニ
人アリ其ノシ

夕ヤクツキニ小臣四人祭僕六人御僕十
二人アルナリ皆同官ニテツナジヤクヲ

ツトムル之蓋シマハリエヲ相クル
フツツトムルナルハシ

此采其更之云 其更ハ使臣ノ
ナリ

以自光明也 自ラニハヤハリ使
臣ノナリ

先就事也 就事トハ歌フ
カ、ルヲ云フ言ハエ

ハ先ツ就事ナ後チ獻ズ故ニ上ニ
工歌乃獻之トイフテアルニ

右工歌

以旅于西階上

上ノ唯公所賜ト
ハ賓ト諸卿ノ長

ト右イツレエテモ公ノ賜ハリシダヒ
之其ノ賜ハリシ解ヲ以テ賓長

ノウチドキラテモ西階上ニツイテ
シバヨリ以下ノ衆大夫ニ夕旅スルニ

賓長弼車 賓ト諸卿ノ長ト
ナリ君ヨリ車キ

鄉飲酒禮曰磬南北面 此レハリ縣ノ
中央ノナリ

既欲其身之壽考 其身ハ君タ
ルモノ、ナリ

教六詩 凡雅頌比賦興ノ六ツ
ナリ

是明其學而知之也 是レ明カニ大師ハ
声歌ヲ掌リ知

ツテヲルナリトイフコナリ

射人俱相礼其事同

升歌 升ハ堂上升ツテ歌五ハ之
歌ハ鹿鳴四牡皇者華之

合樂三終 三終ハ三章ノ一ノ凡ツ
升歌モ鹿鳴ノ類三章 右立
司正

ナリ笙歌モ同歌モ御樂モ三ナ三章
ニテ同ク三終ト云フ合樂ハ御樂ナリ
御樂ハ周南カ三章 召南カ三章
ニテ六章ナレ凡三終トハ三章ツ
右徹
右徹
右徹

請膜肝骨云々

アルトコロニツヒテノ言葉之又
賈疏云御飲酒注云合樂謂歌与衆
声俱作此經無合樂字其實亦与衆
声俱作○義疏云合樂而云歌者明衆
音並作宛以人声其主也

射人一人 射人ハモト二人ナリ上ノ
立司正トコロニテ一人ノ射
人ハ司正トナリヲレバトニコリヲル
射人一人之即千是レ之
司士一人 賈氏云司士掌群士爵祿
廢置之事

右樂備

司正為上
司士ヨリハ司馬
上トスルナリ

乃薦士 章句云 薦 獻至此十八字
疑在乃薦言正之上

小臣 小臣カ君ノタノニ賓ノ下拜ヲ
辭シテ身ヲ捧セシムル之

右主人獻士

大射正射人之長者也 射人二人ノ
人ノ長之即千上 射人一人ノ一人ナリ
教曰此大射正即上云射人一人者也

唯公所賜 賓カ卿大夫ノ長カノウチ
ト千ヲエテモ公賜ハシテ之

御射記曰自君射至龍檀云々此
ノ字ハ衍文トイフ説リ後フギ之
言ハ若シ射ハ其ノ禮ハ三ナ御射礼
トヲナシナレ凡御射記ノウチノ君射
云々ヨリ龍檀トイフトコロニ至ルマデ
ノ其ノアミハ諸式ノシカタサホフハ
此ノ燕射ト一タ千カフコトアル之

受者云々 受者ハ卿大夫ノ長カ
賓カノウチド千ヲ云々
坐行之 坐ハ上ノ受者之言ハ公ヨリ
受ルモノ自ラ飲ミヲトクダシ
カシテ爵ヲサスモノハ興ツトハイラス之

爵辭云々 此ノ九字ハ司正ヨリ執
事受者ハ即千下文ノ大夫卒受者
以爵與ノ大夫之興以酬士ハ即千
下文西階上酬士是レ之

右燕射

右公
為士
琴旅

ノ通ニヤジ

二等ハ階ノニダシ之言ハ
越エテ升ハ七ツ階ウチツ

其始升云々
始升ハ階ノ第一等エ
升リシトキノ一

越ニ等
階ノ第五等ニ及ビシ時
ノ一之蓋シ始升ハ第一等

且ツソロエ升リソレヨリ第二等ヲ
スニ第三等エ越エ又々第四等ヲ
キニ第五等エ越エ升ル是レ第二等
ノ二階ヲフズシテ越ニ等ニ

左右足各一履而升堂
是レ第五等
ニアル時ノ一

之蓋シ諸侯ノ階ハ七足ニテ七等ナリ
故ニ已ニ二等越エ升リ第五等ニアルハ
アト二等之共ノ二等ニシテモ一足ヲ第六
左右ノウチドチフノ一ニテモ一足ヲ第六

等ノ階ヲフノハアトノ一足ヲ第七
等ヲフム是レ左右足各一履而升
堂ナリ且ツソロエハ第一等
ト堂エ升リシ時ト又々教氏ノ

說ハ第七等デハ復聚是テ然後
升堂トアリ鄭注トサシ異ナル似タリ

欲絶於賓
施ハ別ツノ心口之賓ト
ワカツナリ

有内羞
内羞トハ房中ニテ用ニル
羞之共ノ羞ヲコエモ亦用ユ

醢食糝食
糝食糝食

糝餅粉粥
糝餅粉粥

射屬
教曰稍興發矢時相連屬也

不以樂志

射ヲ以ニ志ストハ射ヲ
發ツ時樂ヲナシ節
奏ヲシテ一射ノ志ス之共ノ節
奏ヲナカハル之是レ不以樂志ナリ

辟不敏也
不敏ハ臣下タルモノ不敏
之不敏エエワホトサケテ

樂ヲ以テ奏ニルヨフナリハ敢テ
セハルトイフ心口ナリ

若飲君燕則云々
若シ賓カ勝
千君ニ罰爵ヲ

飲ニストキ之燕ノ上ニ如ク字ヲ
脱ス如燕ストミラ旨之注ハ自ラ分明ニ

如燕媵觥則又交爵
交爵トハハ
ツハシメ賓カ

受爵ノミ
公エノセソノアトデ又
ノ賓カノム之是レ前後ニド賓カノミ

公ハ中カイチドハカリノム之即千燕
ニ賓カ公エ觥ヲ媵スルニ前後ニド
射事礼ノ如シ故ニ如燕媵觥ト云フ也

膳爵曰臣云々
曰ハ四方之賓カ曰之

贊執爵者
執爵者ハ賓ヤ君ノ
爵ヲトリツムハキナリ

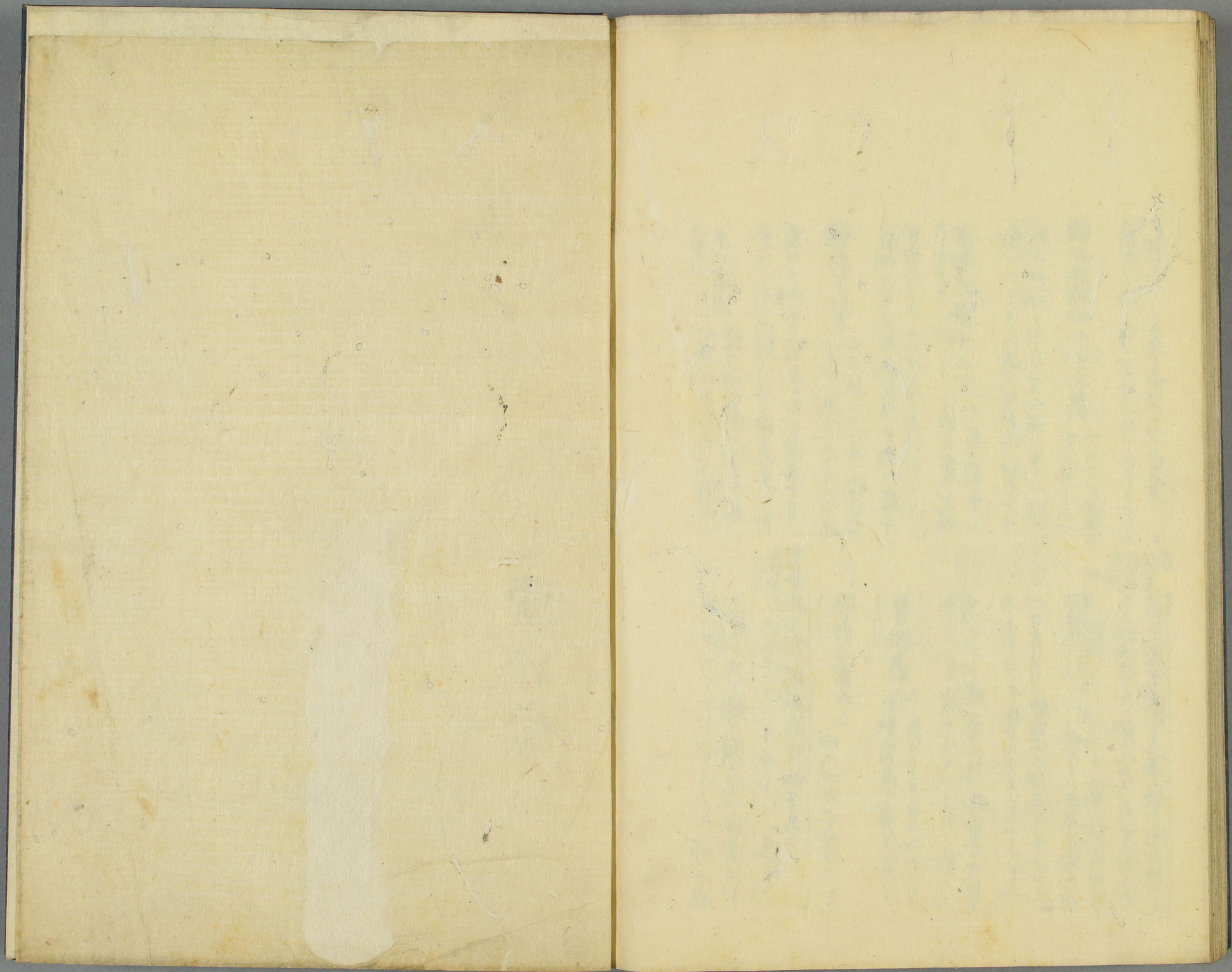
然ルニ今ニ賓カ千キ
モツテイテ媵スルユニ執爵者ヲ贊

ストイフ之執贊ハタスクルトイフ
心口ナリ執爵者ヲ休息サス心口ニ

謂之房中者
之レトハ周南召南之詩
ノ二南ノ詩ハ后夫人タ

義ニ房中樂ト二南ノ詩ヲ急ク歌フニ

右記栗
方實
之辭及
樂



栗卯堂

栗卯堂
此乃有龍先生

